

マークをクリックするとそのページを見ることができます



発生動向総覧  
P.2-3

< 34週 > 咽頭結膜熱、手足口病の定点当たり患者報告数は減少傾向にある / その他最新動向



注目すべき感染症  
P.4

< 腸管出血性大腸菌感染症 > 第34週の報告患者総数は190と多い  
< 無菌性髄膜炎 > 第34週の報告患者総数は56で、定点当たり報告数は0.12



病原体情報  
P.5

患者から分離・検出された病原体報告 Vero毒素産生性大腸菌 / 手足口病 / ヘルパンギーナ / 無菌性髄膜炎 / 他



速報  
P.6-7

山羊肉を原因とした *Salmonella Weltevreden* による食中毒事例と県内外の発生状況 - 沖縄県 / 他



海外感染症情報  
P.8

西ナイルウイルスの活動性 - 更新 / 他



感染症の話  
P.9-11

MRSA  
メシチリンに耐性を獲得した黄色ブドウ球菌で、我が国では1980年代より各地で分離されている



読者のコーナー  
P.12



グラフ総覧(34週)  
P.13-19



34週のデータ  
P.20-27



# 発生動向総覧

第34週コメント 9月1日集計分

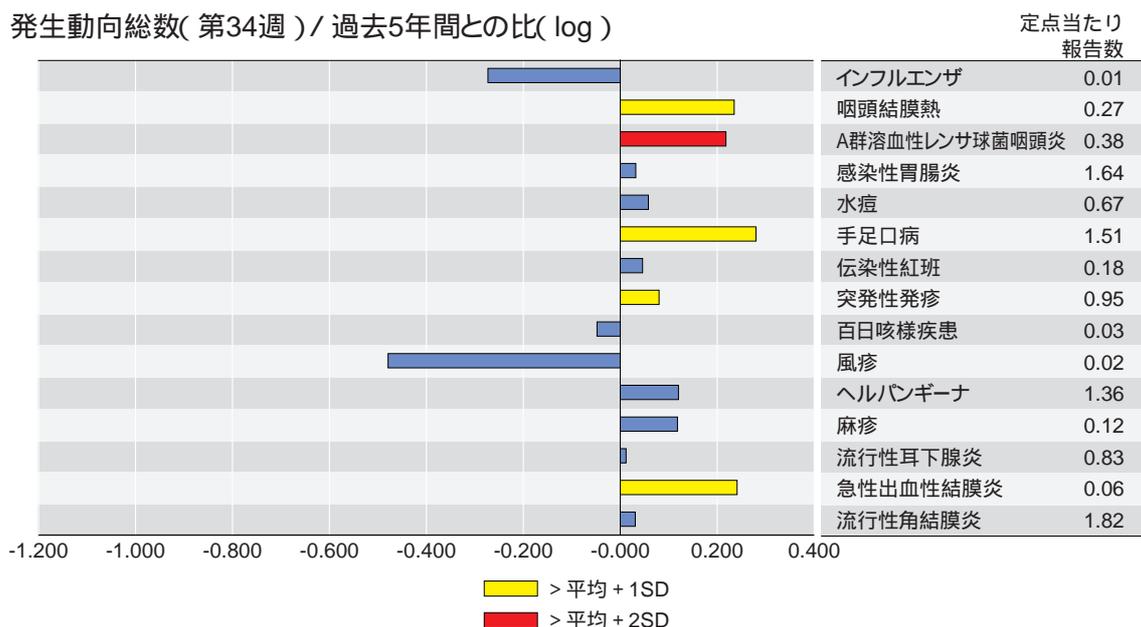
## 全数報告の感染症

- 1類感染症: 報告なし
- 2類感染症: 細菌性赤痢21例( 推定感染地: 国内3例、インドネシア7例、インド3例、カンボジア2例、ネパール、タイ、フィリピン、ケニアまたはインド、フィリピンまたはタイ、不明各1例 ) 腸チフス1例( 推定感染地: インドネシア )
- 3類感染症: 腸管出血性大腸菌感染症190例
- 4類感染症: アメーバ赤痢6例、エキノкокクス症1例、破傷風2例
  - 急性ウイルス性肝炎2例 B型2例\_うち性行為感染1例
  - 後天性免疫不全症候群8例( 無症候性キャリア5例、AIDS3例 )
    - 感染経路\_不明2例、性行為感染6例うち異性間4例、同性間2例
  - クロイツフェルト・ヤコブ病1例( 孤発性 )、ジアルジア症2例、梅毒8例( 早期顕性4例、晩期顕性0例、無症状4例、先天性梅毒0例 )、マラリア3例 三日熱マラリア2例\_推定感染地: インドネシア1例、ブラジル1例、四日熱マラリア1例\_推定感染地: ガーナ)

## 定点把握の対象となる4類感染症( 週報対象のもの )

咽頭結膜熱、手足口病の定点当たり患者報告数は減少傾向にあるが、例年の同時期にくらべやや多くなっている( 病原体については5ページ病原体情報参照 )。流行性角結膜炎は茨城県で5.1、愛媛県で4.0と定点当たり報告数が多くなっている( 病原体については5ページ病原体情報参照 )。

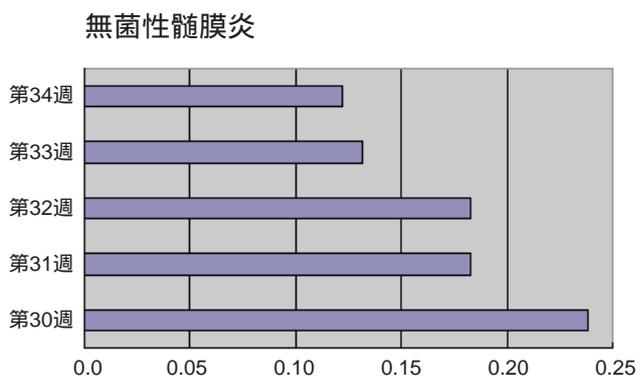
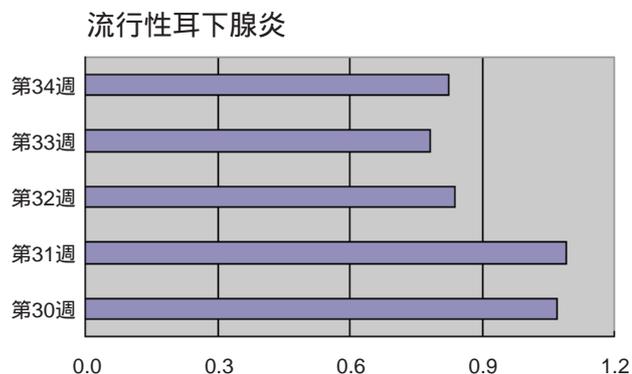
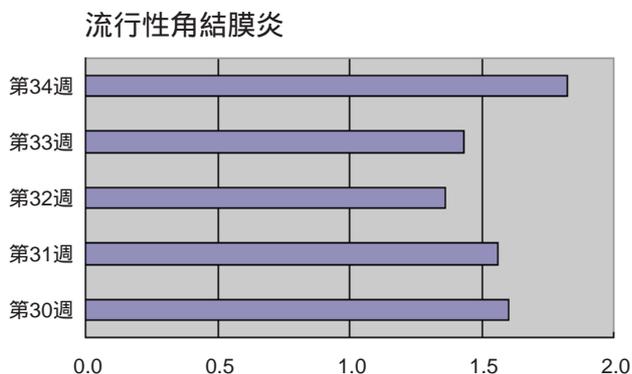
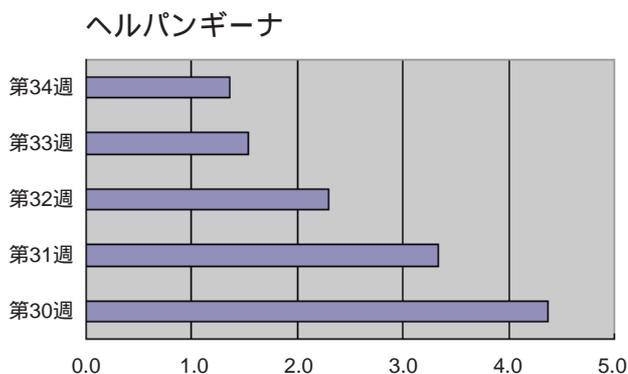
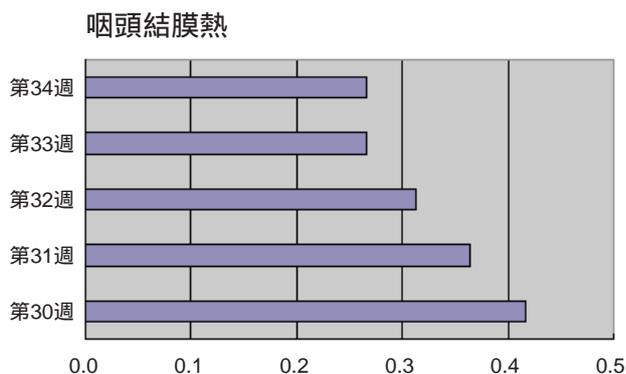
発生動向総数( 第34週 ) / 過去5年間との比( log )



当該週と過去5年間の平均 ( 過去5年間の前週、当該週、後週の合計15週の平均 ) の比を対数にてグラフ上に表現した。1標準偏差を超えた場合黄で、2標準偏差を超えた場合赤で色分けしている。

## 最近の注目疾患-5週間の動き

咽頭結膜熱、ヘルパンギーナ、無菌性髄膜炎はいずれも減少傾向にある。流行性角結膜炎は2週連続で前週の定点当たり報告数を上回った。流行性耳下腺炎は定点当たり報告数が前週より増加している。



(注) グラフの横軸は各疾患の定点当たり報告数( 報告総数/定点総数 )を表す。疾患によって目盛りのスケールが違うことに注意。



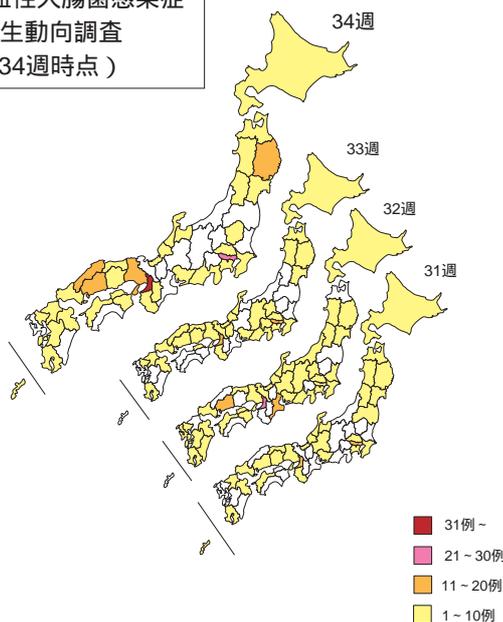
# 注目すべき感染症

## 腸管出血性大腸菌感染症流行状況

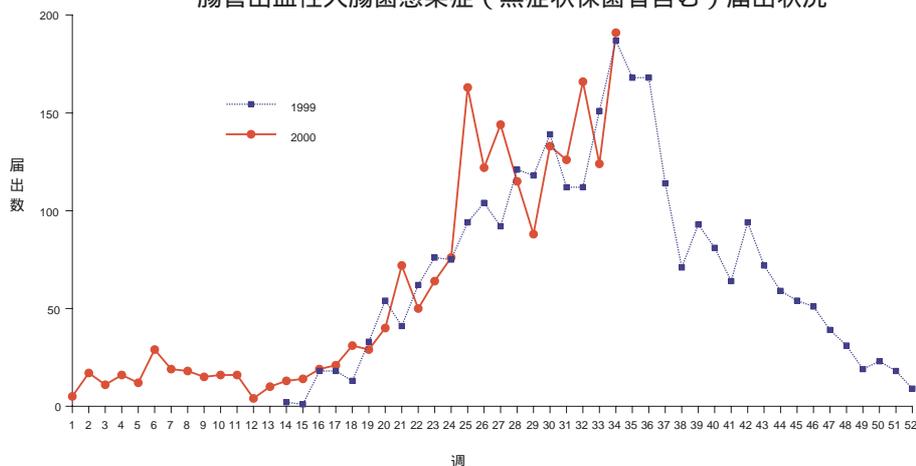
2000年第34週( 8月21日 ~ 8月27日 )の、腸管出血性大腸菌感染症報告総数( 無症状病原体保有者含む )は190と多かった。

報告件数が多かったのは、大阪府( 37 )、東京都( 23 )、島根県( 15 )、兵庫県( 14 )、広島県( 13 )、岩手県( 12 )などであった。このうち集団発生が確認できたのは、大阪府の11例、島根県の13例などである。その他は家族内感染、及び散発例の集積であった( Vero毒素産生性大腸菌 O157、O26の検出状況については、5ページ病原体情報参照 )。2000年第1週からの累積患者報告数は1,987となり、大阪府、東京都、神奈川県、愛知県、福岡県、兵庫県など大都市を含む都府県で累積報告数が多い。

腸管出血性大腸菌感染症  
発生動向調査  
( 34週時点 )



腸管出血性大腸菌感染症 ( 無症状保有者含む ) 届出状況



## 無菌性髄膜炎流行状況

無菌性髄膜炎は基幹病院定点からの報告疾患で、その多くはウイルス性髄膜炎であるため、基本的な流行パターンは主流となるエンテロウイルスのそれに従う。すなわち、初夏から上昇し始め、夏から秋にかけて流行が見られる。今年も5月の連休明け頃より報告数が急増しており、第30週の定点当たり報告数0.24が現在のところピークとなっている。

第34週( 8月21日 ~ 8月27日 )の、全国定点医療機関からの無菌性髄膜炎患者報告総数は56で、定点当たり報告数は0.12であった。

患者の年齢階級別では、9歳以下の幼小児が全体の66%を占め、20歳以上の成人例は全体の18%である。

基幹病院定点からの病原体報告によると、今年第34週までに無菌性髄膜炎から分離されたウイルスで最も多かったのはEV71( 92件 )、次いでムンプスウイルス( 76件 )で、3位のエコー16型の9件を大きく上回っている( 病原体検出情報事務局に入った地方衛生研究所からの無菌性髄膜炎病原体情報については5ページ病原体情報参照 )。



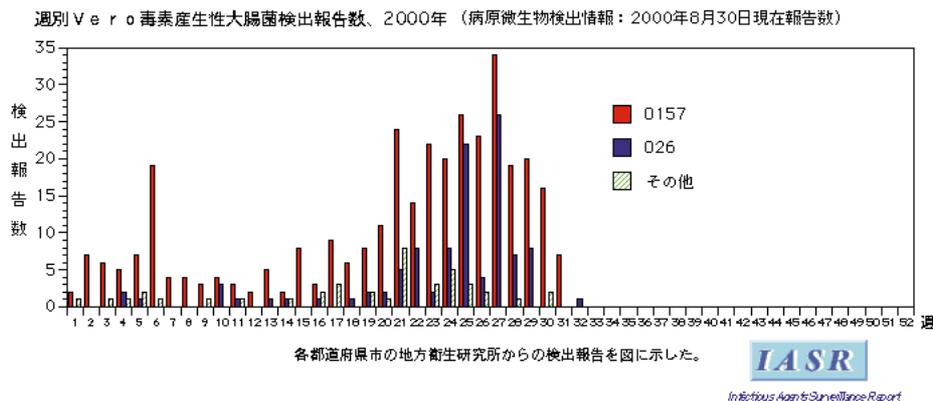
## 病原体情報

(2000年8月31日現在報告分)

\*グラフはIASRホームページ <http://idsc.nih.go.jp/iasr/index-j.html> からの引用です。

### ヒトから分離されたVero毒素産生性大腸菌O157およびO26 2000年

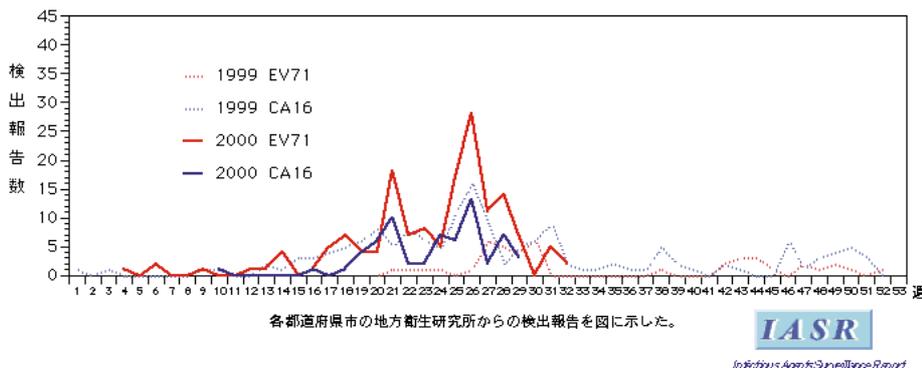
本年のVero毒素産生性大腸菌の検出総数は、O157が343件、O26が106件である。O157は、大阪府(61)、富山県(20)、福岡市(20)、滋賀県(18)、札幌市(17)の順で報告数が多く、第30週以降では大阪府(7)、福岡市(4)、愛媛県(3)である。O26は、大阪府(23)、石川県(16)、岩手県(13)からの報告数が多く、第30週以降では京都市から1件の報告である。



### 手足口病患者から分離されたウイルス 2000年

エンテロウイルス71型(EV71)の分離は107件報告され、西日本からの報告が多く、第30週以降では川崎市2、愛媛県2の報告である。コクサッキーウイルスA16型(CA16)は63件報告され、その約半数である31件は山形県からの報告である。CA10は9件報告され、うち4件は東京都からの報告である。

週別エンテロウイルス71型、コクサッキーA16型分離報告数、年別比較(1999年、2000年)  
(病原微生物検出情報: 2000年8月30日現在報告数)



### ヘルパンギーナ患者から分離されたウイルス 2000年

A群コクサッキーウイルス(CA) 98件(10型37、4型26、6型19、2型12、9型2、7型1、8型1)の分離が報告されている。

### 無菌性髄膜炎患者から分離されたウイルス 2000年

エコーウイルス(E) 60件(25型15、9型14、11型8、3型7、6型5、18型5、30型4、4型1、17型1)、B群コクサッキーウイルス(CB) 53件(5型16、4型15、1型9、3型9、2型3、6型1)、ムンプスウイルス20件、エンテロウイルス71型(EV71) 20件、CA9型4件、CA10型2件の分離が報告されている。

### 咽頭結膜熱患者から分離されたウイルス 2000年

アデノウイルス(Ad) 47件(3型16、1型12、2型12、5型3、4型2、6型1、19型1)の分離が報告されている。

### 流行性角結膜炎から分離されたウイルス 2000年

アデノウイルス14件(19型3、4型2、8型2、11型2、37型2、2型1、3型1、7型1)の分離が報告されている。



## 山羊肉を原因とした *Salmonella Weltevreden* による食中毒事例と県内外の発生状況 - 沖縄県

事件の概要: 1999(平成11)年8月16日、沖縄県名護市の医療機関より食中毒症状を呈した30名の患者を診察した旨の連絡が北部保健所にあった。調査の結果、患者等は8月14日名護市内で開催された新築祝い参加者で、参加者135名のうち84名が発症し、12の医療機関で72名が受診、うち15名が入院した。患者の主な症状は下痢(96%、平均21回)、発熱(85%、平均39)、腹痛(86%)、頭痛(58%)、吐き気(28%)、嘔吐(25%)で、発症までの平均時間は16時間であった。喫食状況の疫学的統計処理結果より山羊刺身、山羊汁の可能性が最も高く、これらを喫食した88名のうち81名(96%)が発症した。

当所において患者4名の検便および山羊刺身、山羊汁の残品を検査した結果、すべての検体より *Salmonella Weltevreden*; 3,10:r:z6(SW)が検出され、原因食品として確定した。また、解体施設内であったくず肉および冷蔵庫内のふきとり検査からもSWが検出された。山羊肉は違法に屠殺解体されたもので、8月14日午前10時に購入後、自宅において刺身、汁用に調理し、同日午後5時～10時まで客に提供した。今回の食中毒発生要因は、密殺による不衛生な山羊の解体処理により山羊刺身用の肉が、山羊の消化管内に生息するサルモネラに汚染され、肉を氷にて冷却していたにもかかわらず、同日の気温30、湿度75%の気候条件が菌の増殖を助長したものと考えられた。

本県では山羊肉を刺身、汁にして食べる食習慣があり、山羊肉による集団食中毒が1989(平成元)年以降3件(1999:SW、1998:C. jejuni、1989:SW)発生し、うち2件がSWによるものである。

沖縄県内、国内、海外でのSWの発生状況: 1989～1999年の過去11年間に本所にて検査を行ったサルモネラ食中毒の事件数45件、患者数796名の事例のうち、SWによる事件数はEnteritidis(22件、49%)、Typhimurium(7件、16%)に次ぎ3番目に多く(6件、13%)、患者数はSE(445名、55%)に次いで2番目に多い(154名、19%)。IASRによれば、1991年以降、本県以外のSWの集団発生報告は、1994年栃木県内の温泉旅館の事例1例のみで、国内では非常に稀な血清型である。しかし、輸入感染症として海外渡航者下痢症からは高頻度に分離され、1995年にはインドネシア渡航後にSW腸炎を発症し、死亡した事例の報告がある。海外ではフィリピンの散発下痢症患者より分離されたサルモネラ血清型で、最も多いものがSW(30%)であり、マレーシアにおいてはTyphi、Typhimuriumについて第3位、ハワイ・ホノルルにおける小児下痢症においてはSWが最も高率(23%)に分離されている。その他タイ、インド等、特に東南アジア地域を中心に報告され、これらの地域においては普通にみられる血清型である。

感染源として本県では、山羊肉、インゲンの和え物、にがなの和え物、栃木県では鹿の子イカ(刺身)、シンガポールではカットフルーツ等の報告があり、タイではブロイラー、産卵鶏、ナイジェリアではヤモリ、マレーシアではネズミ等から高率に分離されている。以上のことからSWの熱帯・亜熱帯地域における地理的分布、保菌動物あるいは食習慣との関連性等、興味深いところであり、今後も同菌に対する東南アジア等、熱帯・亜熱帯地域からの輸入感染症、輸入食品の汚染等の注意が必要である。

沖縄県衛生環境研究所

久高 潤 系数清正 中村正治 平良勝也 安里龍二

(IASR8月号より抜粋、詳細はIASR Vol.21 No.8, 2000 P.3)

## 教育研修施設において発生したヒトC群ロタウイルスによる集団胃腸炎事例 - 岡山県

昨年、県内で初めてヒトC群ロタウイルス( Human group C rotavirus、以下CHRV )による集団胃腸炎事例を経験した( IASR Vol.20、No.9参照 )が、本年も引き続きCHRVによる集団胃腸炎事例が確認されたので、その概要について報告する。

2000( 平成12 )年5月24日～26日にかけて県南部の教育研修施設での宿泊研修に参加した2つの小学校( F小学校およびK小学校 )の生徒が、5月26日～28日にかけて嘔吐、下痢、発熱などを訴えていると倉敷保健所に通報があり調査が開始された。

その結果、研修に参加した生徒( いずれも6年生 )および教職員あわせて172名( F小学校51名およびK小学校121名 )のうち、5月24日～30日の間にF小学校で26名( 51% )およびK小学校で61名( 50% )の計87名( 51% )が胃腸炎症状を訴えていることが判明した。患者発生状況をみると、患者の31%( 27名 )が5月27日に集中して発症しており、それ以外では5月24日～30日の間に散発的に発症していた。なお、教職員にも2名の発症者がみられた。患者87名の主な症状別の発症率は、腹痛87%、下痢51%、嘔吐・嘔気22%、発熱13%、頭痛15%であった。また学校別の発症率をみると、F小学校では腹痛85%、下痢69%、嘔吐・嘔気39%、発熱35%、頭痛35%であったのに対し、K小学校では腹痛89%、下痢43%、嘔吐・嘔気15%、発熱3.3%、頭痛6.6%であった。

5月24日～30日に発症した患者31名( F小学校13名およびK小学校18名 )について、5月30日～6月1日( 患者の第2～9病日に相当 )に糞便を採取し、食中毒菌およびウイルス検査を実施した。菌検査では原因と考えられる食中毒菌が検出されなかったため、電子顕微鏡によるウイルス検索を行ったところ、3名でロタウイルス様粒子が観察された。そこでA群ロタウイルス検出用ELISA法( ロタクローン、TFB社製 )を行ったが全例陰性であったため、当センターで開発したCHRV検出用RPHA法( デンカ生研社製 )を実施したところ、電子顕微鏡検索陽性例のみからCHRVが検出された。しかしながら検出率が低く、CHRVを原因ウイルスとして特定し得なかったため、さらにアストロウイルス( AstV )検出用ELISA法( IDEIATM Astro-virus、DAKO社製 )、ノーワークウイルス( NV )検出用RT-PCR法( 平成11年2月10日付衛食第20号衛乳第28号の別添に準拠 )およびCHRV検出用RT-PCR法( J. Clin. Microbiol. Vol.34、3185-3189 )を行った。その結果、AstVおよびNVはすべて陰性であったのに対し、21名( 68% )からCHRVの遺伝子が検出された。さらに、患者発生が5月27日にやや集中していたことから集団食中毒の可能性も考え、調理従事者6名について患者と同様のウイルス検索を行ったが、全例陰性であった。

CHRVは、全発症期間にわたって検出されており、特に研修初日の5月24日に発症した患者5名中3名( F小学校2名およびK小学校1名 )からもCHRV遺伝子が検出されたことは注目に値した。学校別の検出率では大差はなく、クラス別の検出状況にも差はみられなかった。また、検査した31名の臨床症状の重症度とCHRV遺伝子検出との間に特に関連性は認められなかった。

今回のCHRVによる集団胃腸炎事例の感染経路については、両校とも研修初日の5月24日に発症した患者からウイルス遺伝子が検出されていたこと、および調理従事者からは同遺伝子が検出されなかったことなどから、「ヒト-ヒト感染」が強く疑われた。なお、両校で臨床症状に差が認められたこと、および施設内において学校間の相互感染があったのかについては、さらに詳しい検討が必要である。

ここ数年CHRVによる集団胃腸炎事例が毎年のように報告されており[ IASR Vol.17( No.12 )、Vol.18( No.12 )、Vol.19( No.11 )参照 ]また岡山県でも2年続けて本ウイルスによる集団胃腸炎事例が確認されたことなどから、今後の流行拡大が大いに危惧される。これまでの報告を総合すると、CHRVによる集団胃腸炎事例のほとんどが4～6月に集中して発生していることから、特にこの時期の集団胃腸炎事例にはRT-PCR法をも含めたCHRVの検索が不可欠であると思われる。

最後に、疫学情報の収集および検体採取に多大なご協力を頂いた倉敷保健所の関係各位に深謝します。

岡山県環境保健センター

葛谷光隆 濱野雅子 藤井理津志 小倉 肇

( IASR8月号より抜粋、詳細はIASR Vol.21 No.8、2000 P.8-9 )



## 海外感染症情報

### 西ナイルウイルスの活動性 - 更新

Health Canada 2000年8月31日

New York City Department of Health 2000年9月1日

9月1日までにニューヨーク市で西ナイルウイルス感染患者が7名確認された。61歳以上が6名で、52歳が1名であった。また、6名はスタッテン島の出身で、1名はブルックリンの出身である。2名が入院中であり、5名は自宅で療養している。

西ナイルウイルスに感染して死んだ鳥や感染した蚊がニューヨーク、ニュージャージー、コネティカット、マサチューセッツとロードアイランド各州の多くの郡で報告されたが、ウイルスが現在報告された以上に広範囲に広がっている可能性がある。

*Culex pipiens*、*Culex restuans* と *Culex salinarius* は夕方から夜明けにかけて刺す蚊であり、また *Aedes japonicus* と *Aedes triseriatus* は昼間に刺す蚊であって、これらが西ナイルウイルスに感染していることが明らかになっている。

### 空港マラリア - マラリアの定着を専門家が警告

Eurosurveillance Weekly 2000年8月24日

8月に出版されたThe bulletin of the World Health Organizationの論文によれば、国際線航空機の往来によりマラリアを媒介する蚊が持ち込まれ、この病気が拡大する危険性について多くの国の保健担当者たちの間で関心が高まっている。

マラリアのない112カ国において、1969年から1999年の間に、空港周辺の住民に87名のマラリア患者の報告があった。その中でフランスが26名で最も多く、次いでベルギーの16名、イギリス14名であった。「空港マラリア」のこれらの患者は、マラリア流行地域で感染し、その結果発症する「輸入マラリア」患者とは異なっている。

パリやブリュッセルで比較的多数の患者が発生しているのは中央および西アフリカから到着する便が多いことを反映している。その結果少なくとも5名が死亡しているが、この5名は以前にはマラリアに罹ったことがなく、マラリアに対する免疫がない人であった。

マラリアの診断が大きく遅れると、マラリアの症状が重症化したり、合併症を引き起こすこともある。

1990年にスイスで空港マラリア患者5名が発生したが、1名は確定診断されるまでに31日かかった。

空港マラリアは、通常医師がほとんどマラリアを疑わないという点で特に危険である。もしマラリアが流行している地域に最近旅行したことがなければ、まさに典型的な例といえる。そのため診断が長引き、正確な診断と適切な治療が行われる前に死亡することがある。

以前に報告のなかった国でマラリアを媒介する蚊が定着した例もみられる。この研究では1930年にブラジルにマラリアを媒介する蚊が、おそらく航空機というよりもむしろ船舶で持ち込まれ、ブラジルは約30万人の患者と1万6千人の死者が発生する流行地域となったことを引用している。ブラジルでは媒介蚊を根絶するため、多大な費用をかけたキャンペーンが実施され成功をおさめた。

熱帯病の流行地域から非流行地域に到着する航空機の殺虫は重要で継続する必要があると専門家からは考えている。マラリアを媒介する蚊は、離陸前あるいは駐機中に客室に侵入するか、荷物室内で生き残る可能性がある。多くの国では既に、特に航空機が衛生害虫などが媒介する病気が流行している地域から来る場合、到着便の殺虫を実施するよう要求している。

航空機の殺虫法について最新のWHOの勧告は1998年に公表された。

(感染症週報事務局 注：) 我が国における空港マラリア対策

海外からのマラリア媒介蚊の侵入・国内定着を防止することを目的に、主要空港にある検疫所においては、年間を通じて定期的に滑走路周辺地域において、

- ① トラップを用いた蚊族調査、
- ② 滑走路周辺の側溝等の蚊幼虫の生息調査、
- ③ 熱帯・亜熱帯地域から来航する航空機内調査を定期的に行っているところである。

現在までの調査では、マラリアを媒介する能力のあるハマダラカ(シナハマダラカ)の生息は確認されているが、海外産のマラリア原虫を保有したハマダラカ属蚊は発見されていない。



## 感染症の話

### MRSA( methicillin-resistant *Staphylococcus aureus*: メチシリン耐性黄色ブドウ球菌 )感染症

メチシリン耐性黄色ブドウ球菌( MRSA )は、ペニシリン耐性黄色ブドウ球菌に有効な狭域 -ラクタム薬であるメチシリンに耐性を獲得した黄色ブドウ球菌である。MRSAの病原性は、皮膚の常在菌である黄色ブドウ球菌と同等であり健常者の皮膚や口腔などに定着していても、通常は無症状である。しかし、術後患者や免疫抑制状態の患者では、術創感染症や敗血症、MRSA腸炎などを引き起こし、ショック症状や多臓器不全を経て死亡する場合も多く、本菌の蔓延は医療の現場で大きな障害となっている。

#### 疫学

ペニシリンGの工業的生産が開始されて間もない1940年代の中頃に、プラスミド依存性にペニシリナーゼを産生するペニシリン耐性黄色ブドウ球菌が出現した。1950年代に入ると、ペニシリン耐性に加え、プラスミド依存性にテトラサイクリン、クロラムフェニコール、エリスロマイシンなど複数の抗菌薬にも耐性を獲得した「多剤耐性黄色ブドウ球菌」が出現した。ペニシリナーゼ産生黄色ブドウ球菌に対抗するため、1960年頃、狭域 -ラクタム薬であるメチシリンが開発導入されたが、直後の1961年には、メチシリンに耐性を獲得した黄色ブドウ球菌( MRSA )が出現した。その後、第三世代セファロスポリンが臨床で広く使用されるようになったが、MRSAに対しては、第三世代セファロスポリンは抗菌力が弱く、これらの薬剤の多用により、MRSAが選択・増殖し、1970年代に入ると世界的な規模で拡大したと考えられている。我が国では、1980年代よりMRSAが各地の医療施設で分離されるようになり、現在、各医療施設において、患者からMRSAが分離される頻度は、患者100人当たり数人程度であるが、喀痰などから臨床分離される黄色ブドウ球菌の過半をMRSAが占めるといった状況が一般的となっている。

#### 病原体

MRSAは、メチシリンやその他の多くの抗菌薬に耐性を示す点以外は、その起源である黄色ブドウ球菌と病原性などの点において、特に大きな差はない。病原因子としては、トキシックシンドロームトキシン-1( TSST-1 )やエンテロトキシンなどが良く知られているが、溶血毒素( α毒素 )、エキソフォリアチン( 表皮剥離毒素 )やコアグララーゼ、スタフィロキナーゼ、ロイコシジン、その他各種の蛋白分解酵素、DNaseなどを産生し、膿瘍や蜂巣炎などでは、感染した組織が強く傷害される。また、MRSA腸炎や敗血症では、TSST-1やエンテロトキシンの作用でトキシックショックが誘発され、死亡することも多い。

疫学マーカーとして良く用いられるコアグララーゼ型別では、我が国では、II型に分類されるMRSAが主流を占めている。また、最近、TSST-1産生株の割合も増加しているとされている。

メチシリン耐性に関与するmecA遺伝子は、トランスポゾン様の構造中に存在し、他の抗菌薬耐性に関与する複数の耐性遺伝子もその中に集積して存在している場合が多いため、多数の耐性遺伝子を含む遺伝子クラスターが、外来性に黄色ブドウ球菌に取り込まれ、MRSAが発生したと考えられている。臨床分離されるMRSA株相互の比較検討のための遺伝学的疫学解析法としてパルスフィールド電気泳動解析などが用いられるが、施設毎に多様なパターンを示す複数の系統のMRSA株が混在している場合が一般的となっている。

MRSAの薬剤感受性については、様々な調査結果が報告されているが、概して言えば、広域

-ラクタム薬はもとより、エリスロマイシン、クリンダマイシン、ストレプトマイシン、ゲンタマイシンなどに対しては、9割以上の株が耐性を示し、ミノサイクリンやフルオロキノロン薬などにも耐性を獲得した株も多くなっている。一方、日本では最近あまり使用されない、クロラムフェニコール、ST合剤などには感受性を示す株も多い。

[ MRSAとバンコマイシン耐性 ]

VRE( vancomycin-resistant *Enterococcus*: バンコマイシン耐性腸球菌 )の分離率が1990年代に入ると増加傾向に転じ、しかも1992年に、イギリスのNobleらによりVREからMRSAにバンコマイシン耐性が伝達するという報告( FEMS Microbiol. Lett. 93: 195-198, 1992 )が出されたため、CDC ( 米国疾病対策センター )は、VREなどのバンコマイシン耐性菌に対する監視と対策を推進するためのガイドラインを1995年に発表した( CDC, MMWR 44( RR-12 ): 1-13, 1995 )。このような状況の中で、我が国でバンコマイシン( VCM )のMIC値が8  $\mu$  g/mlと判定されるMRSAが分離され、国際的に大きな関心事となった( K. Hiramatsu, et al., J. Antimicrob. Chemother. 40: 135-136, 1997 )。しかも、この種の菌は、「VCMヘテロ耐性MRSA」に100万個に1個程度の割合で含まれており、それが、VCMによる治療失敗の原因となっており、しかも、この種の菌は、日常的に行われている薬剤感受性試験では、「感受性」と判定され、検出できない、などということが報告された( K. Hiramatsu. et al., Lancet. 350: 1670-1673, 1997 )ため、世界的に大きな衝撃をもって受け止められた。しかし、その後の調査では、今までのところ、VCMのMIC値が8  $\mu$  g/mlと判定されるMRSAは、国内では、順天堂病院で分離されたMu50株以外には確認されていない。しかも、CDCの研究グループからは、最近「GISA( glycopeptide-intermediate *Staphylococcus aureus*: グリコペプチド系薬剤[ バンコマイシンやテイコプラニン ]低感受性黄色ブドウ球菌: 詳細については <http://idsc.nih.gov/ddrug/bdw211/dw2401.html>を参照。)の検出には、ブレインハートインフュージョン( BHI )寒天培地を用いるのではなく、通常の薬剤感受性試験用のミュラーヒントン( MH )培地でVCMを5  $\mu$  g/ml含む培地を用いるのが実用的である。」、「GISAは、米国内では、1997年の時点ではwide spreadな問題となっていない」( S. K. Hubert, et al., J. Clin. Microbiol. 37: 3590-3593, 1999 )という研究報告が出されるなど、MRSAとバンコマイシン耐性の問題については、冷静かつ客観的な対応がとられる場合が多くなった。しかし、透析患者やVCMの長期投与を受けている患者の血液などから、VCMのMIC値が4-8  $\mu$  g/ml程度と判定されるMRSAが欧米などで数株分離されていることや、テイコプラニンのMIC値が16-32  $\mu$  g/mlと判定されるコアグラゼ陰性ブドウ球菌属( CNS )がしばしば分離されており、ブドウ球菌属におけるグリコペプチド耐性の動向には十分な監視が必要となっている。尚、幸いな事には、VCMに低感受性を示すGISAは、患者の血液などから一時的には分離されるものの、一方で、ペプチドグリカンの代謝に変調が生じ、菌の活力や増殖力が減弱しているせいか、この種の菌が、周囲の患者に伝播し院内感染を引き起こすまでには至っていない。したがって、GISAの臨床的危険度や問題性については、今後の検討課題となっている。

病原診断

①薬剤感受性試験結果に基づく判定

各医療施設において日常的に実施されている同定試験法により、黄色ブドウ球菌と判定され、かつ、NCCLS( National Committee for Clinical Laboratory Standards: 米国臨床検査標準化委員会 )の標準法に従い、2%のNaCl存在下で、35 24時間の培養後、オキサシリンのMIC値が4  $\mu$  g/mlを示す場合、MRSAと判定する場合が一般的となっている。また、NCCLS仕様のdisk拡散法を用いた場合には、同様の培養条件下でオキサシリンの阻止円の直径が 10mmの場合にもMRSA

と判定される。

## ②MRSA特異的遺伝子の検出による判定

遺伝子の検出によるMRSAの判定法としては、PCRによるmecA遺伝子(メチシリン耐性に関与するPBP2'の遺伝子)と黄色ブドウ球菌特異的遺伝子( spa遺伝子=staphylococcal protein A遺伝子)を同時に検出する方法などが開発されている。

## 治療・予防

MRSAが皮膚や鼻腔、口腔から分離されたのみで、感染症の症状を呈さない、いわゆる「保菌例」「定着例」と判断される症例に対しては、除菌目的の積極的な抗菌薬投与は行わない。しかし、術前患者や医療職員などで「除菌が必要」と判断される場合には、ムピロシン軟膏の鼻腔内塗布、あるいはポピドンヨードによる含嗽が行われる事もある。MRSAによる感染症の場合は、ミノサイクリンなどが有効な場合もあるが、無効例ではグリコペプチド系抗菌薬やアルベカシンなどが用いられる場合が多い。MRSAは、既に医療環境では「常在菌」となっており、感染予防や伝播を完全に阻止する有効な手段は見出し難いが、通常の院内感染対策の方法に従うことで、感染症患者または保菌者から、手術予定の患者や免疫抑制状態の高齢者などハイリスク患者への菌の伝播をある程度防止することは可能であり、実際にMRSA感染症の新規患者数を減少させることが可能とされている。

MRSA保菌者などの「隔離」については、MRSAが出現した当初は厳格な方式が推奨されていた。しかし、現在では、MRSAは医療施設の「常在菌」的な性格が強くなっており、患者隔離の実効性が乏しくなりつつある。したがって、手術予定患者や免疫抑制状態の患者へのMRSAの伝播や感染を防止することに重点を置いた院内感染対策が推奨されるようになりつつある。

## 感染症法の中でのMRSA感染症の取扱い

MRSA感染症は4類感染症に分類され、その発生動向は病院定点からの報告により把握される。報告のための基準は以下の通りになっている。

当該疾患を疑う症状や所見があり、かつ、以下のいずれかの方法によって病原体診断がなされたもの。

### ・病原体の検出

- (1)血液、腹水、胸水、髄液など、通常は無菌的であるべき臨床検体から分離された場合(敗血症・心内膜炎、腹膜炎、胸膜炎、髄膜炎、骨髄炎など)で、以下の検査室での判断基準を満たすもの
- (2)喀痰、膿、尿、便など無菌的ではない検体からの分離では、感染症の起原菌と判定された場合(肺炎などの呼吸器感染症、肝・胆道系感染症、創傷感染症、腎盂腎炎・複雑性尿路感染症、扁桃炎、細菌性中耳炎・副鼻腔炎、皮膚・軟部組織感染症など)で、以下の検査室での判断基準を満たすもの

### (検査室での判断基準)

オキサシリンのMIC, 4 μg/ml

または、オキサシリンの感受性ディスク(KB)の阻止円の直径が、10mm

(国立感染症研究所細菌・血液製剤部 荒川宜親)



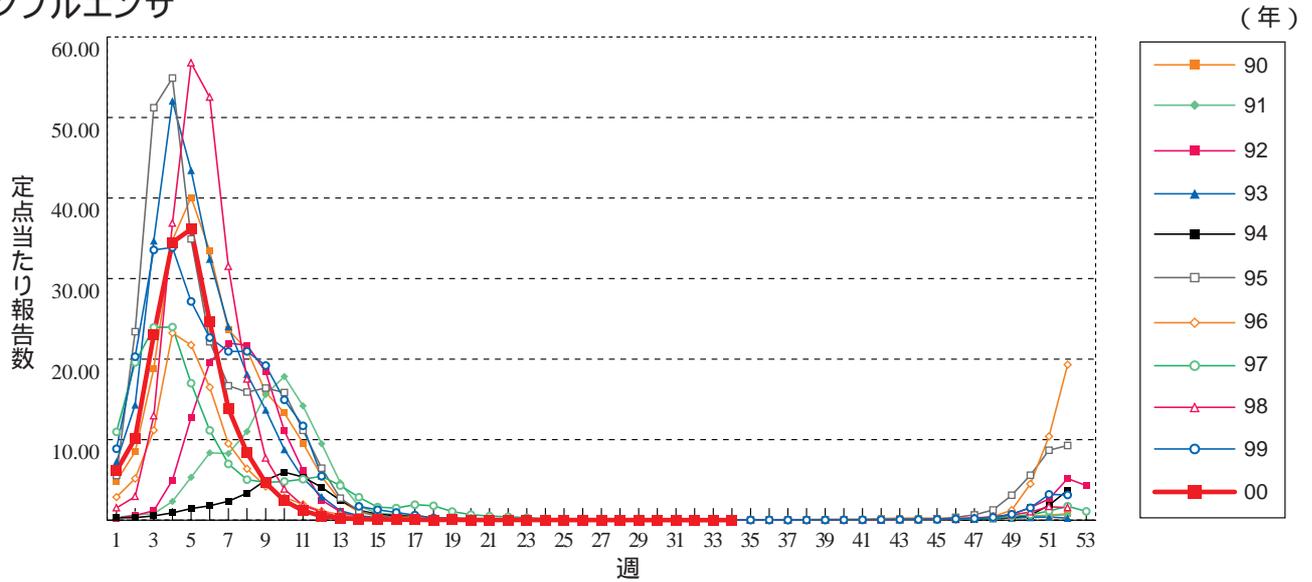
## 読者のコーナー

「読者のコーナー」では読者のみなさまからのご意見・ご質問をお待ちしております。  
ご意見・ご質問は、題名(タイトル)の一番はじめにidwr-Q:をつけてこちらまでEメールでどうぞ。

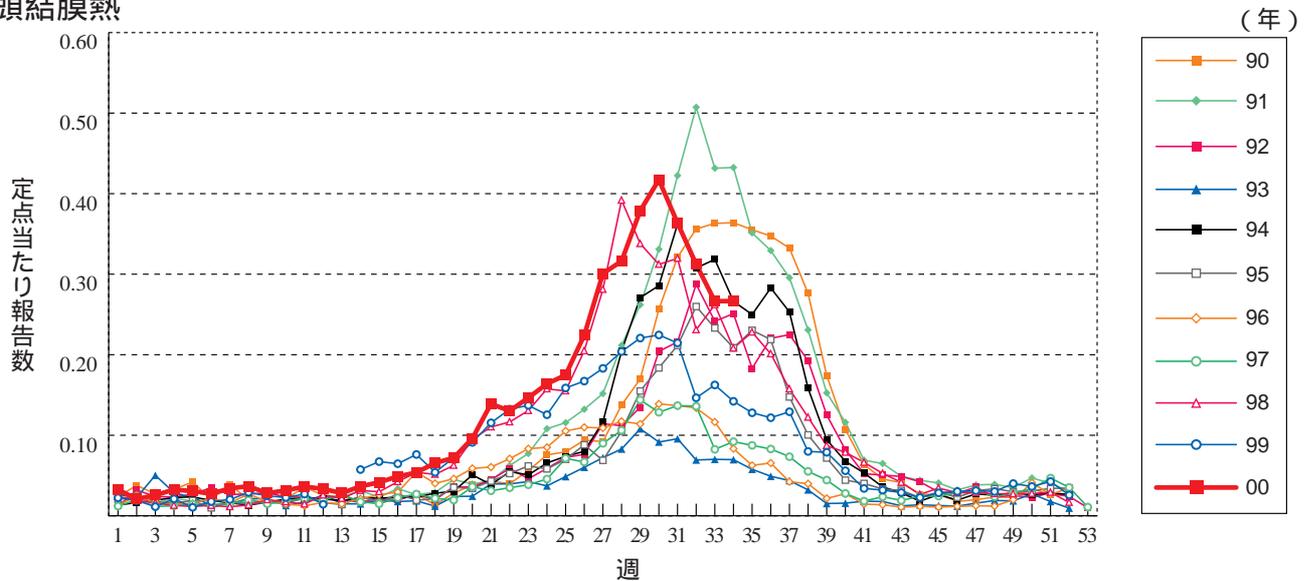
[idsc-query@nih.go.jp](mailto:idsc-query@nih.go.jp)

**グラフ総覧( 3 4 週 )**

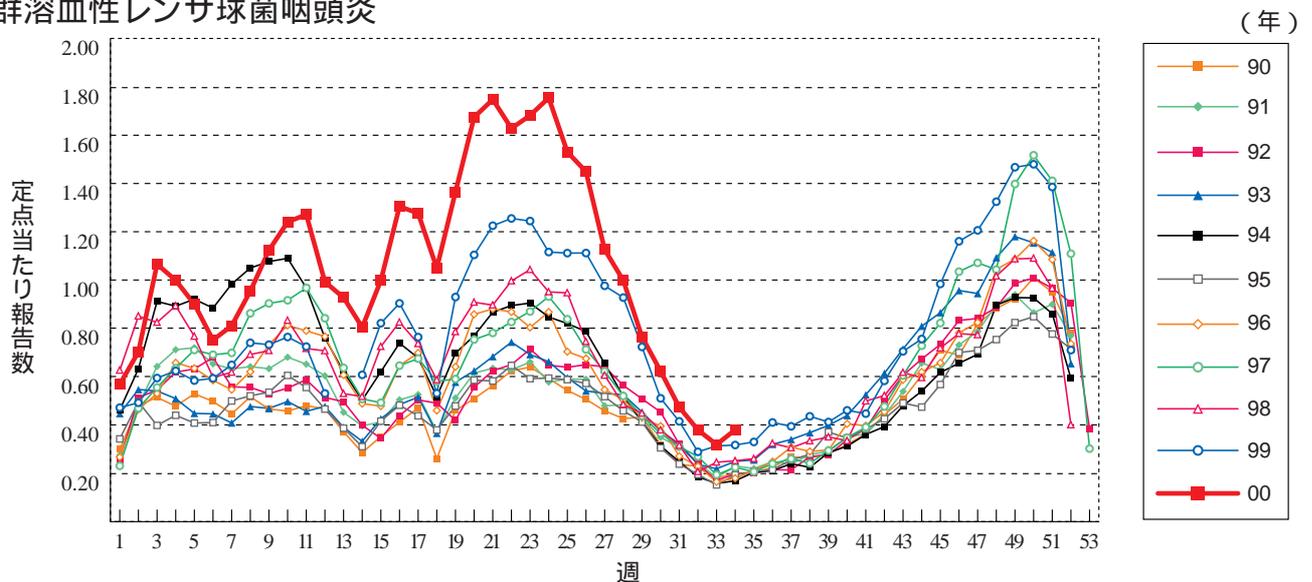
**インフルエンザ**



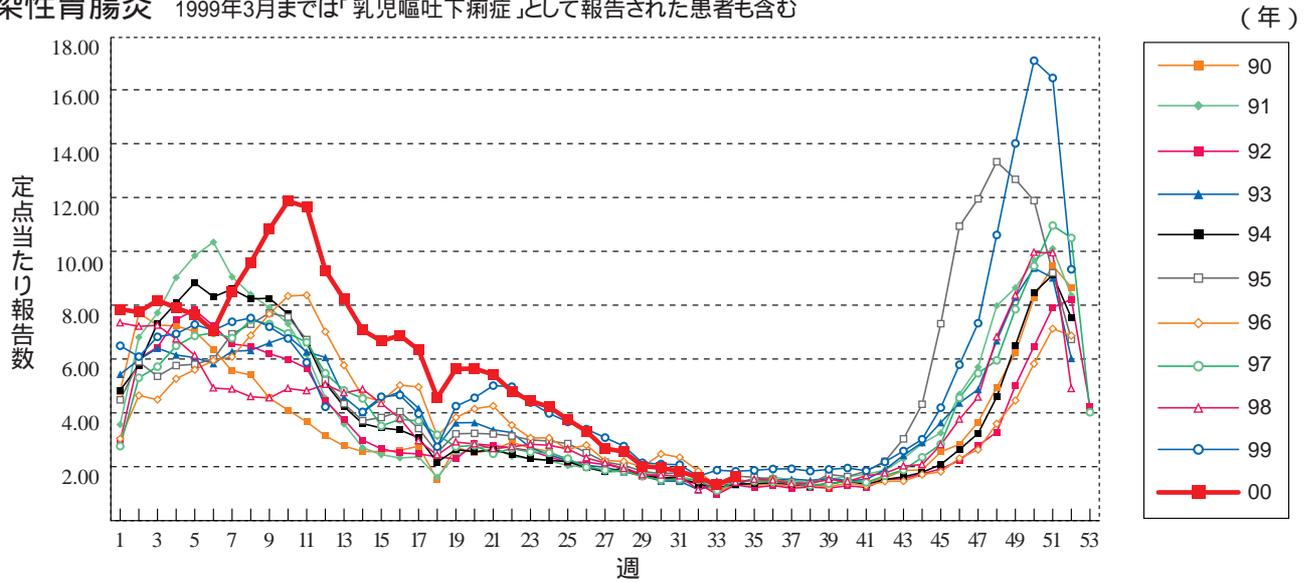
**咽頭結膜熱**



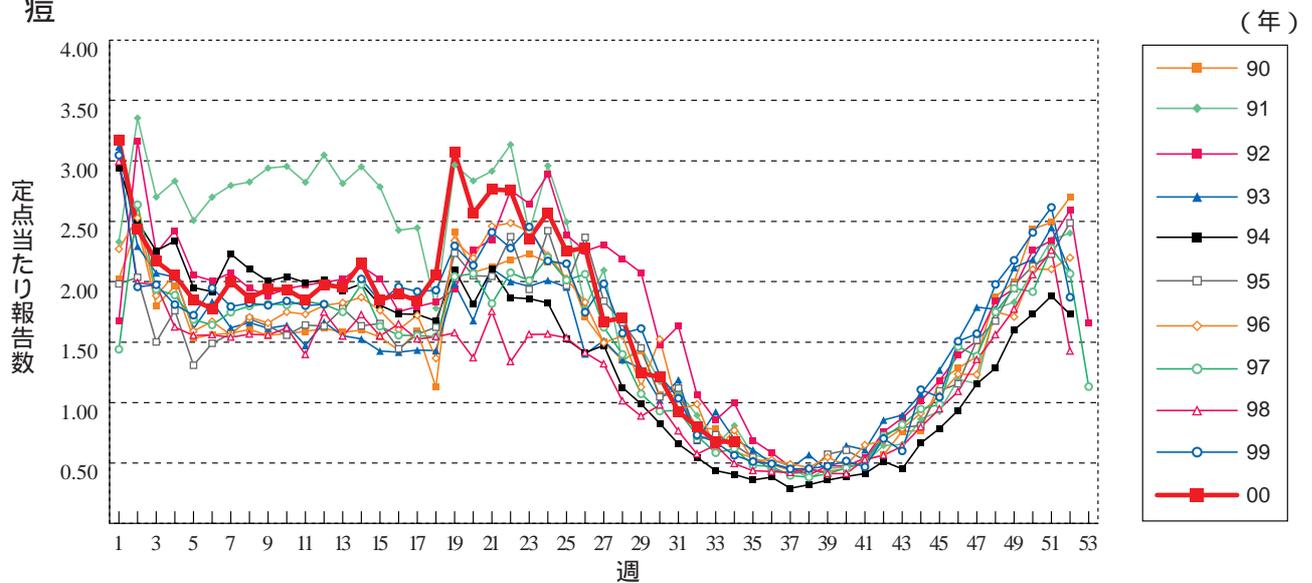
**A群溶血性レンサ球菌咽頭炎**



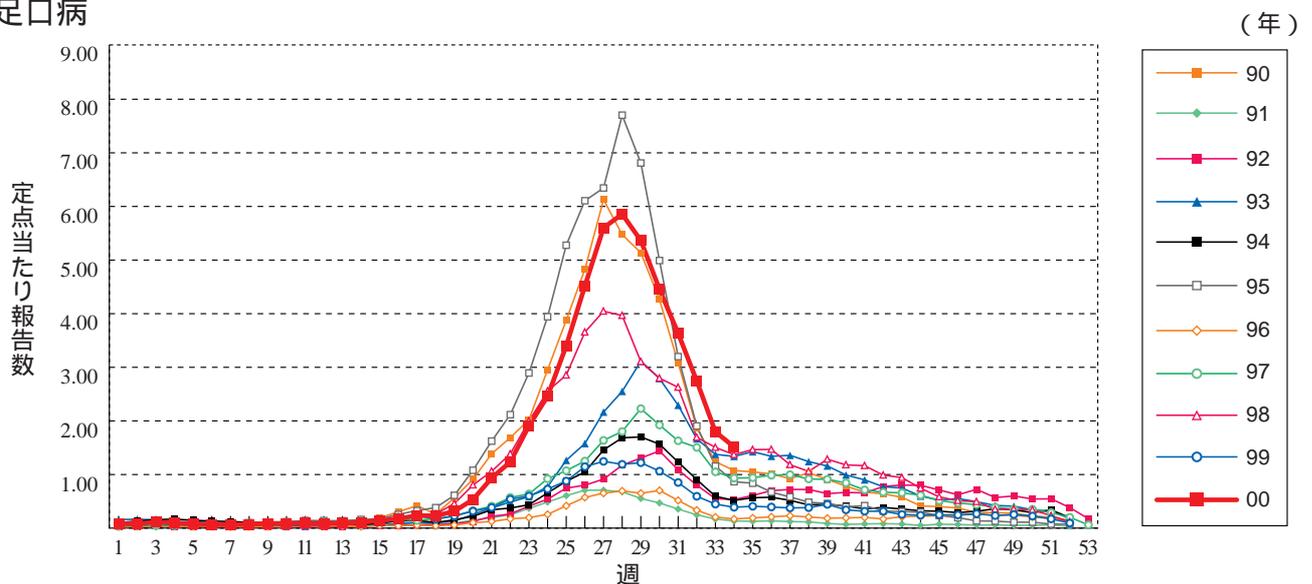
**感染性胃腸炎** 1999年3月までは「乳児嘔吐下痢症」として報告された患者も含む



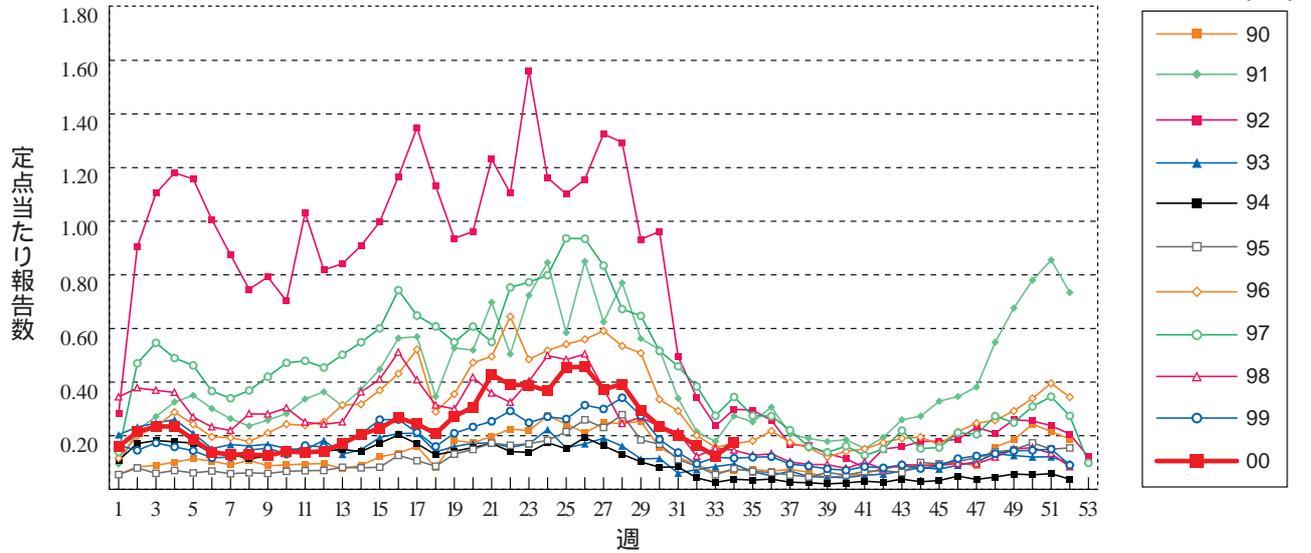
**水痘**



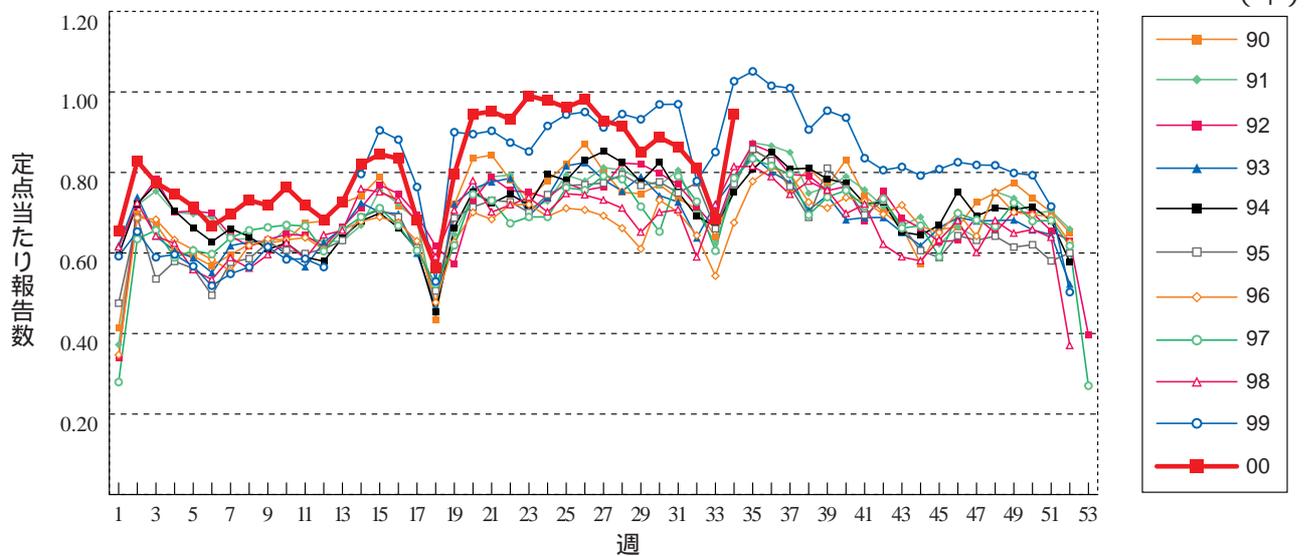
**手足口病**



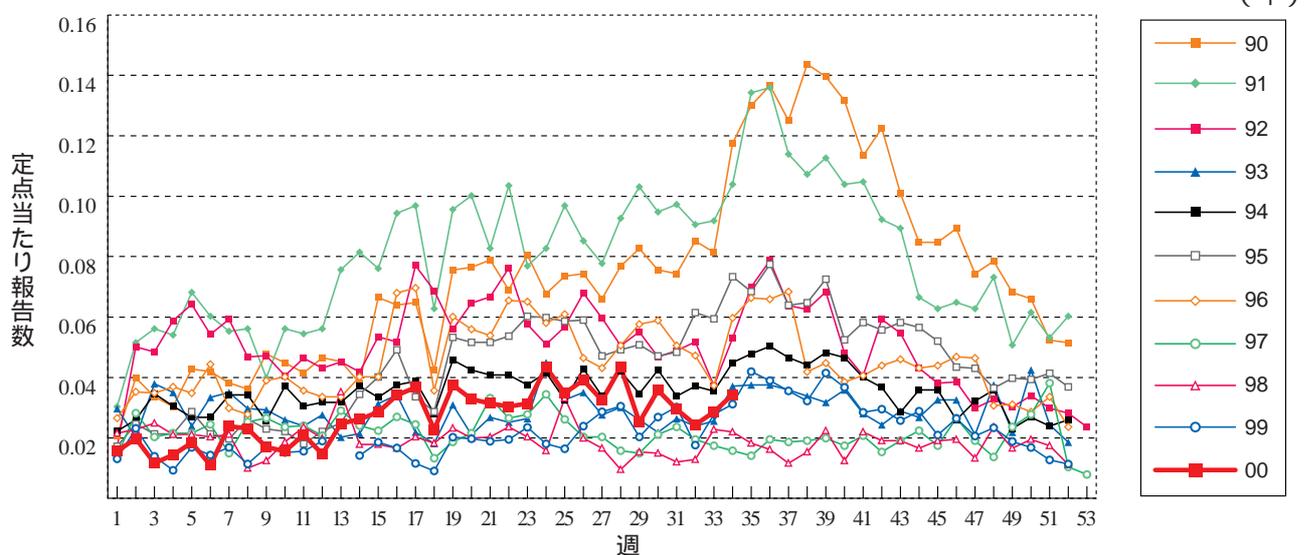
伝染性紅斑



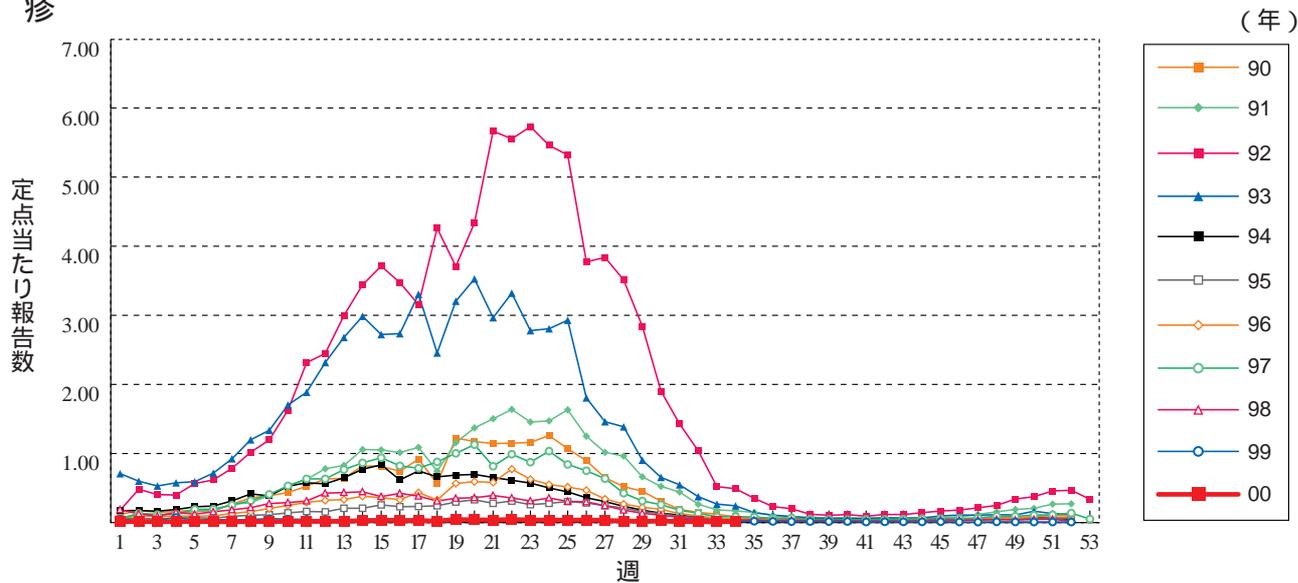
突発性発疹



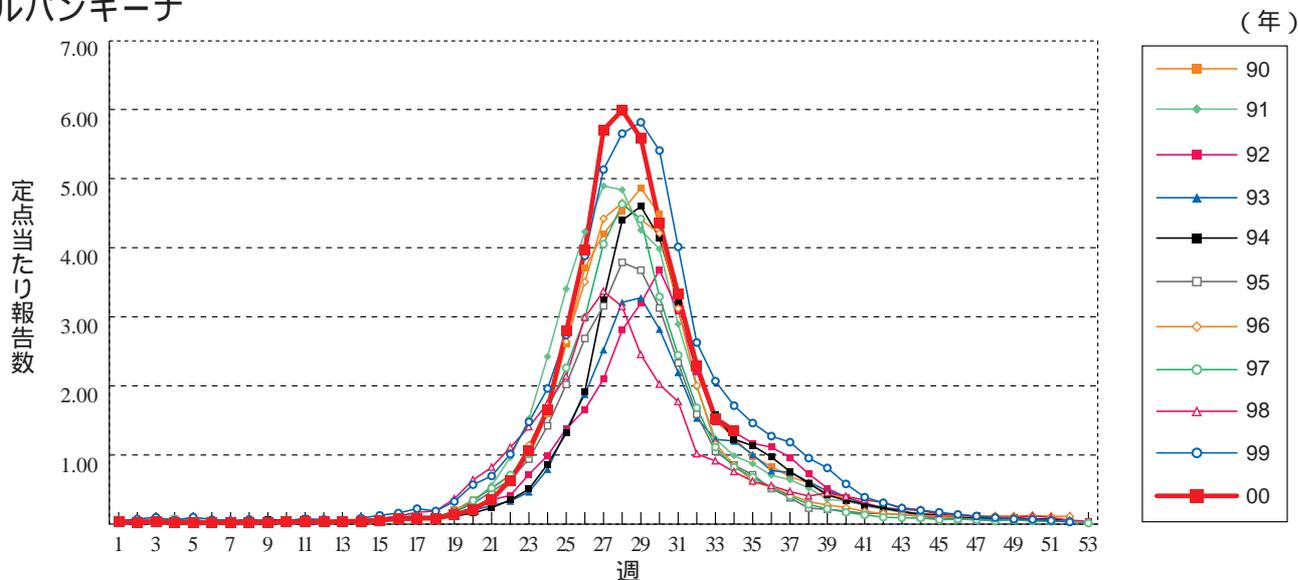
百日咳



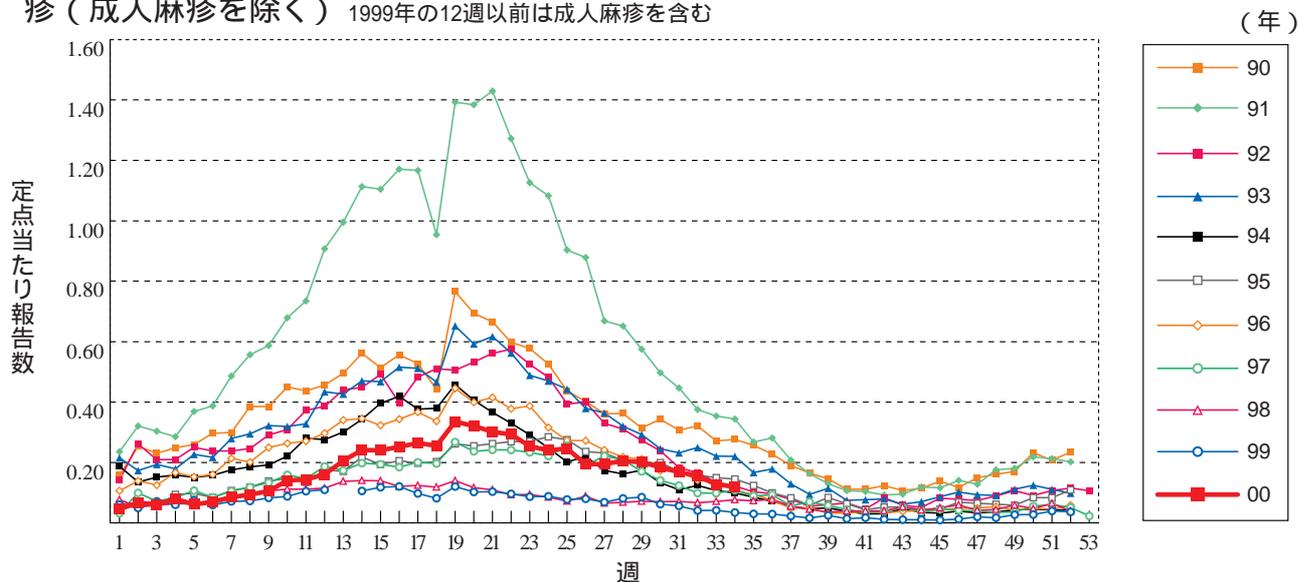
風 疹



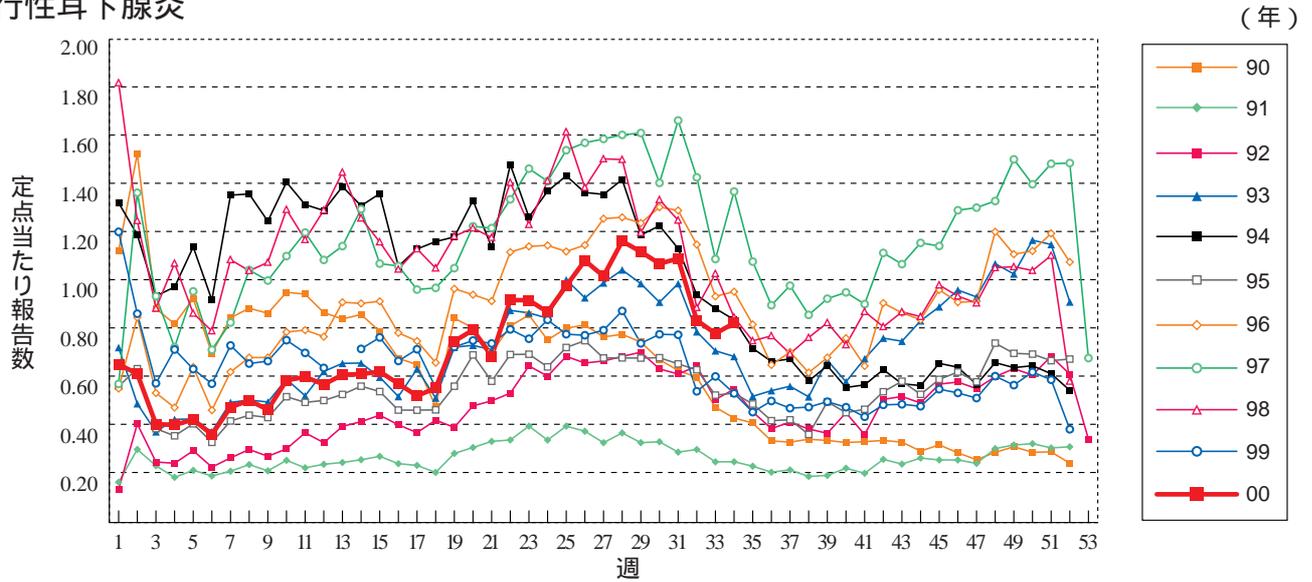
ヘルパンギーナ



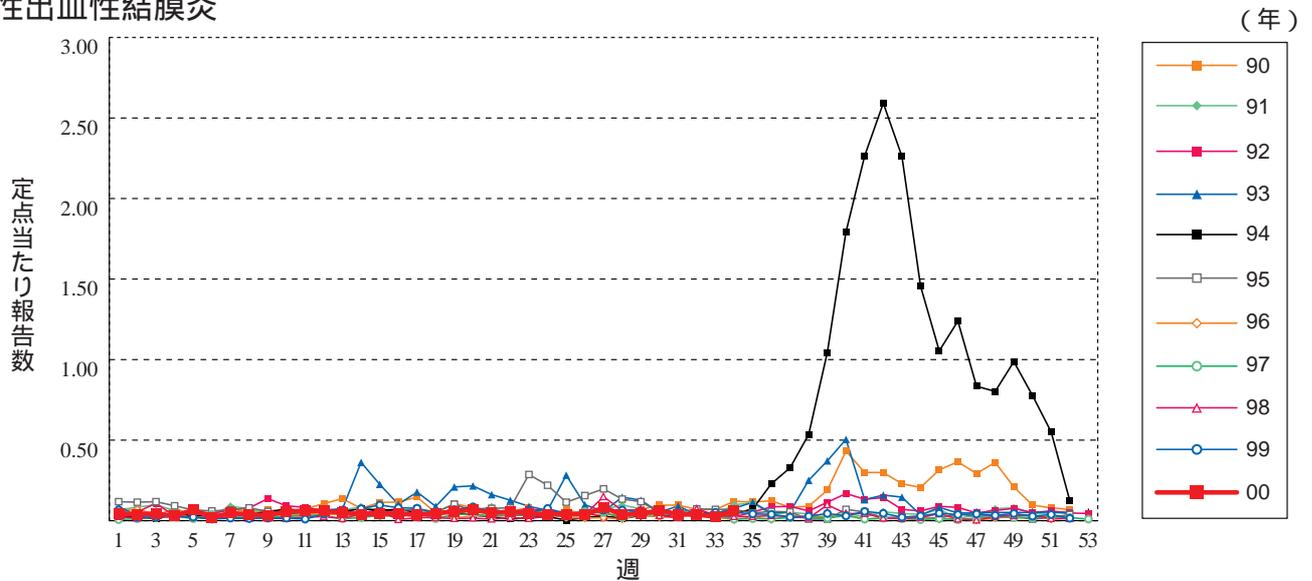
麻 疹 (成人麻疹を除く) 1999年の12週以前は成人麻疹を含む



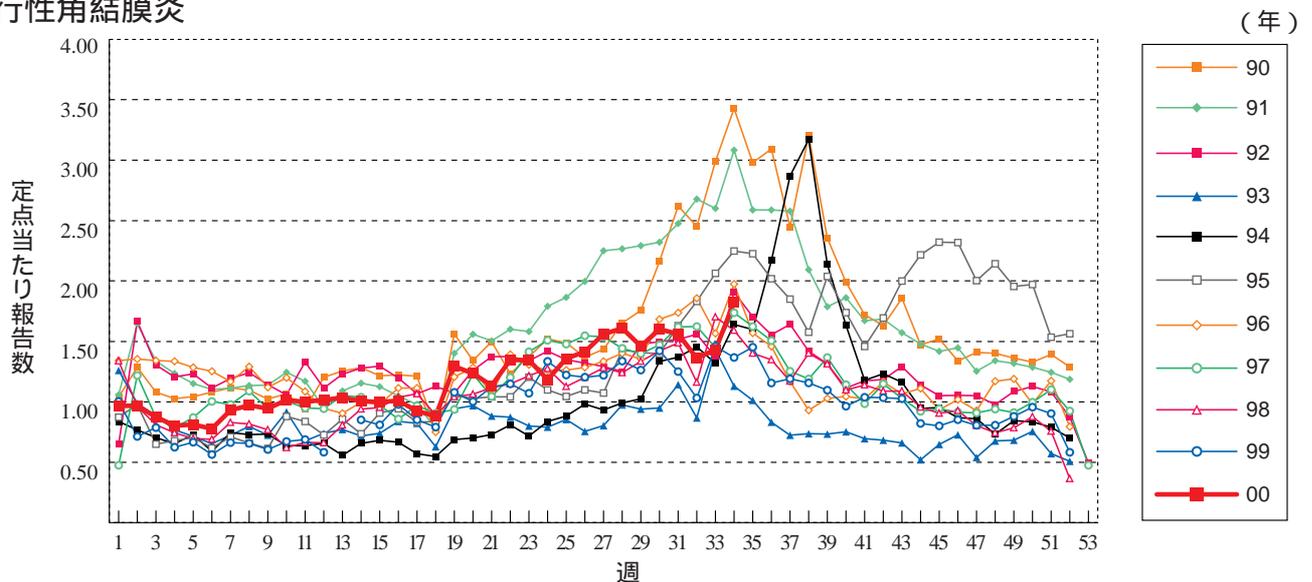
流行性耳下腺炎



急性出血性結膜炎

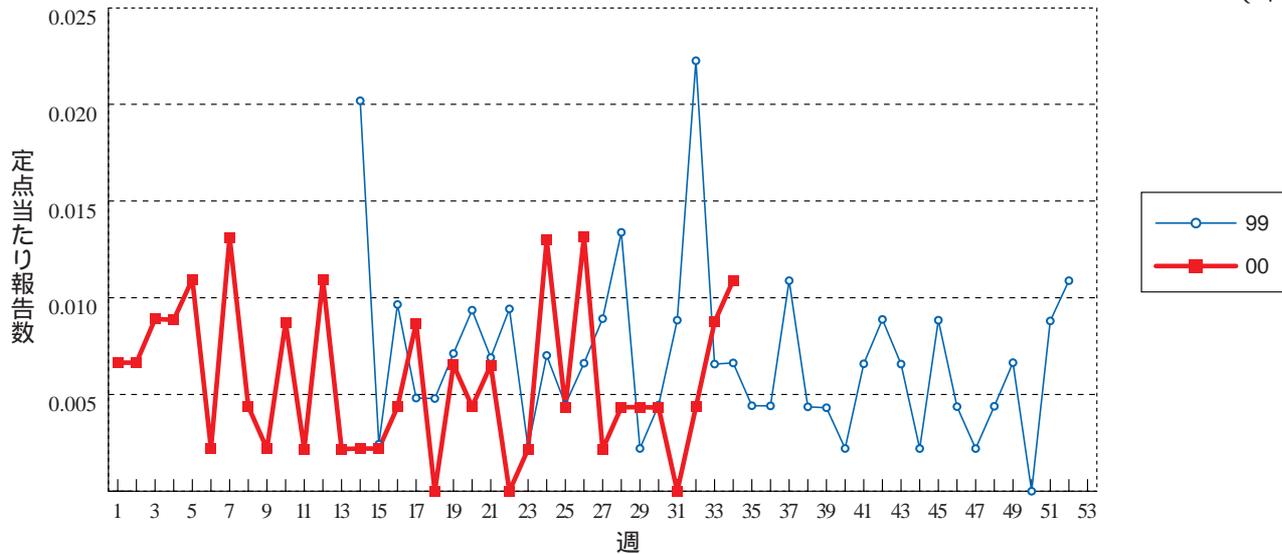


流行性角結膜炎



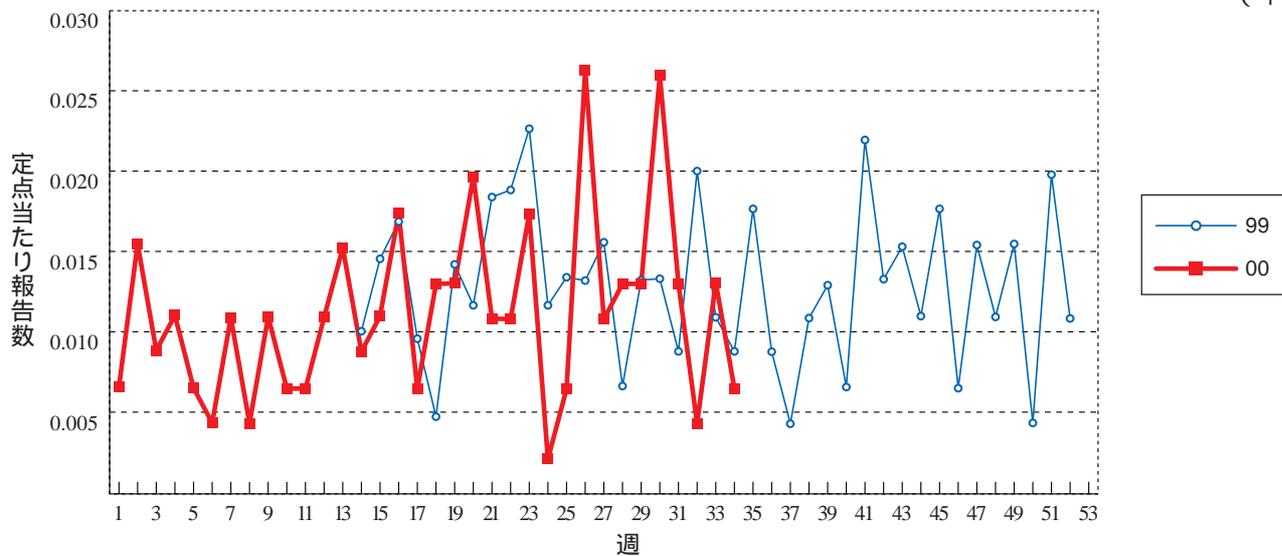
急性脳炎 (日本脳炎を除く)

(年)



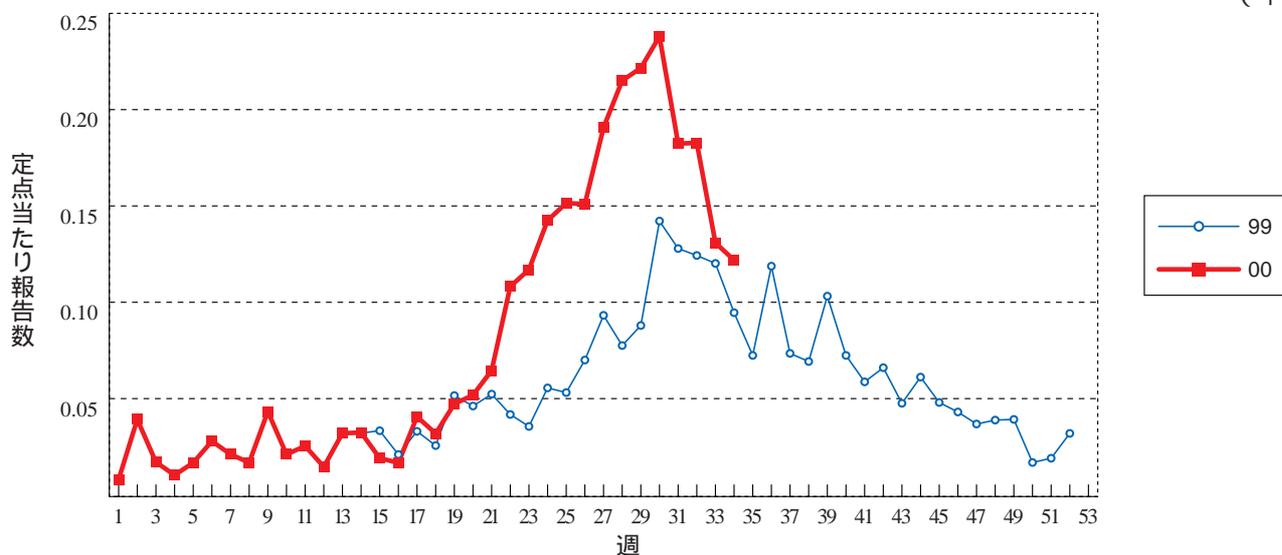
細菌性髄膜炎

(年)



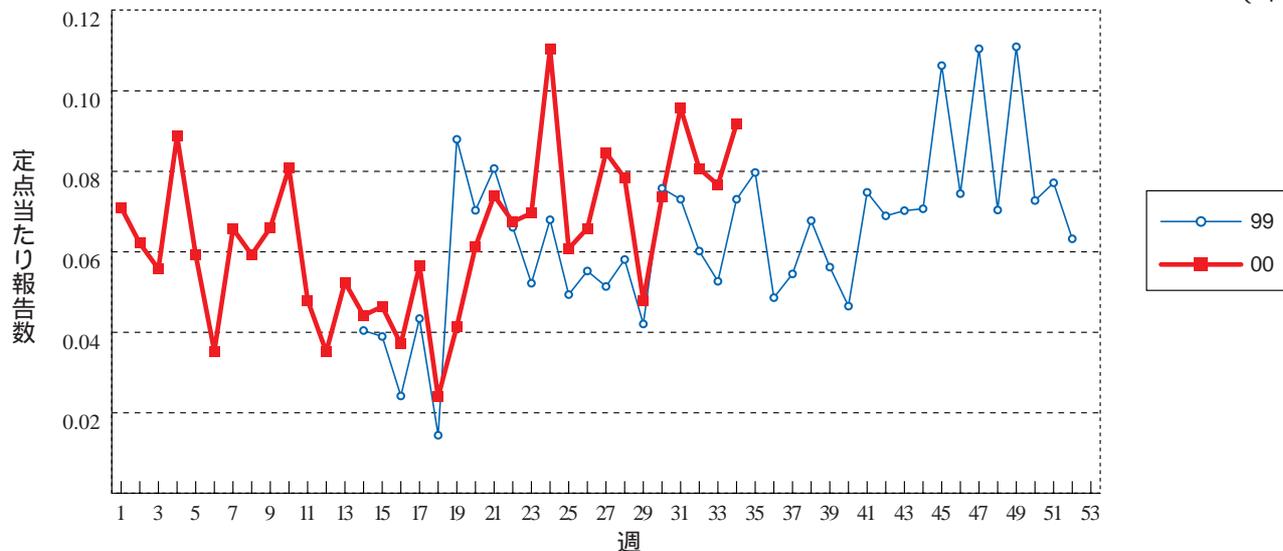
無菌性髄膜炎

(年)



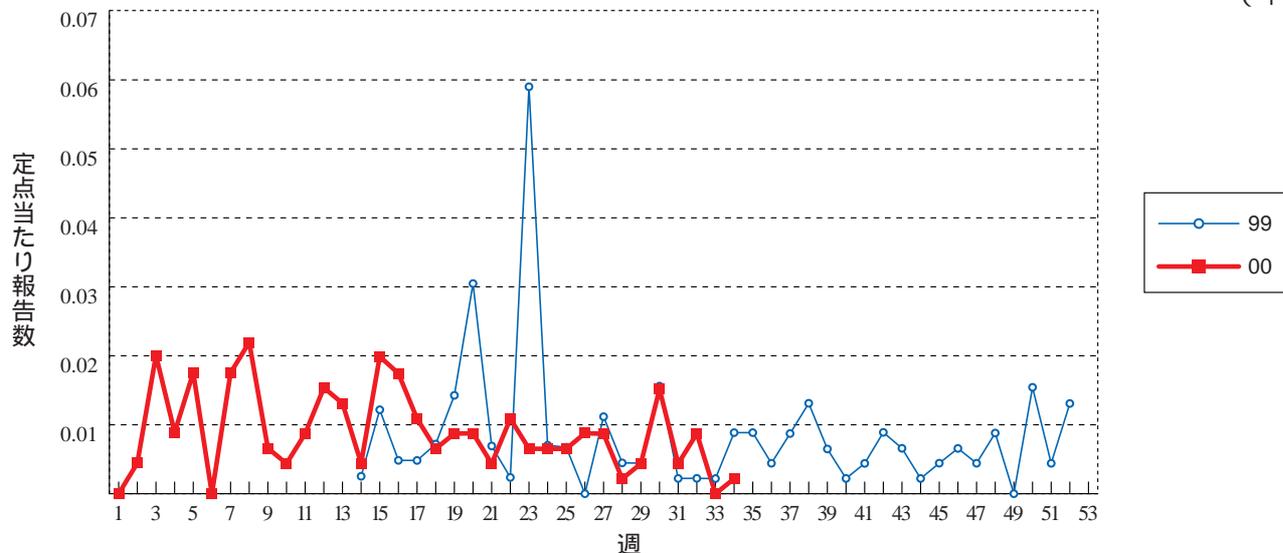
### マイコプラズマ肺炎

(年)



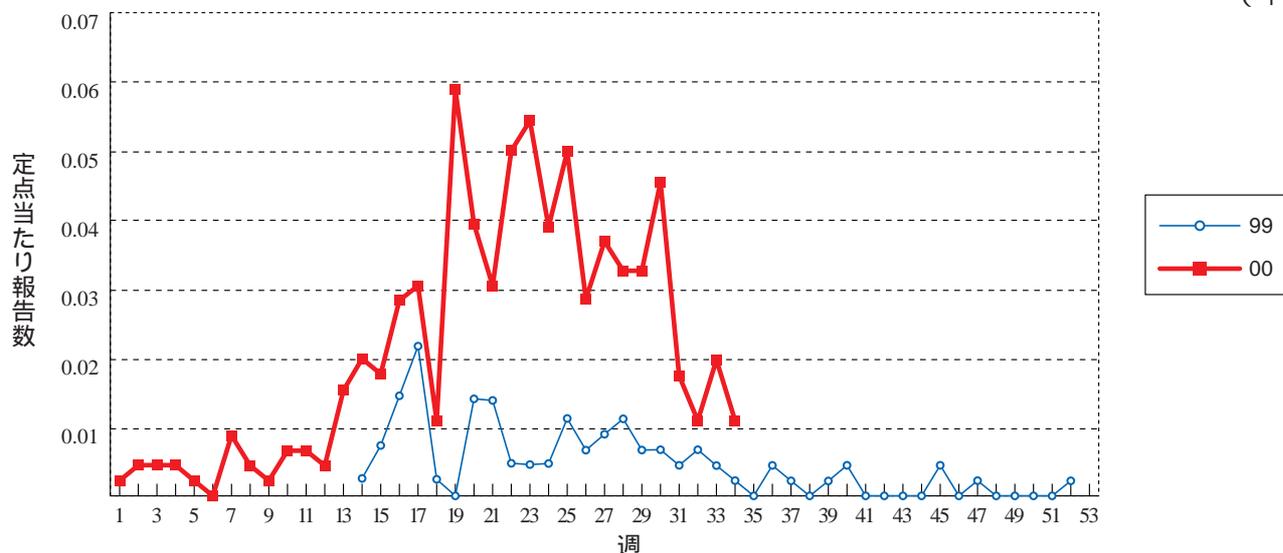
### クラミジア肺炎 (オウム病を除く)

(年)



### 成人麻疹

(年)





### 34週のデータ

注)表中の報告数は9月1日集計分であり、その後の報告数は次週以降の累計に反映されます。

第3101表 報告数・累積報告数，疾病・都道府県別

平成12年34週

	エボラ出血熱		クリミア・コンゴ出血熱		ペスト		マールブルグ病		ラッサ熱		コレラ		細菌性赤痢		腸チフス		バラチフス		
	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	
総 数	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	26	21	464	1	64	-	11	-	-
北海道	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	9	-	1	-	-	-	-
青森県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	1	-	-	-	-
岩手県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
宮城県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	6	-	-	-	-	-	-
秋田県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	5	-	-	-	-	-	-
山形県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	17	-	-	-	-	-	-
福島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-
茨城県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4	-	-	-	-	-	-
栃木県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4	-	2	-	-	-	-
群馬県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	9	-	-	-	-	-	-
埼玉県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	14	1	3	-	-	-	-
千葉県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	15	-	4	-	2	-	-
東京都	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	4	90	-	11	-	4	-	-
神奈川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	4	31	-	4	-	-	-	-
新潟県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	8	-	1	-	1	-	-
富山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-	-	-	-	-
石川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4	-	-	-	-	-	-
福井県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
山梨県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	1	-	-	-	-
長野県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	9	-	-	-	-	-	-
岐阜県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	7	-	-	-	-	-	-
静岡県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	8	-	3	-	-	-	-
愛知県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	1	34	-	5	-	-	-	-
三重県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	1	-	-
滋賀県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4	-	1	-	-	-	-
京都府	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	13	-	1	-	-	-	-
大阪府	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	2	45	-	6	-	3	-	-
兵庫県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	16	-	7	-	-	-	-
奈良県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	13	-	3	-	-	-	-
和歌山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	1	-	-	-	-
鳥取県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
島根県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	3	-	1	-	-	-	-
岡山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4	8	-	1	-	-	-	-
広島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	8	-	-	-	-	-	-
山口県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	-	-	-	-	-	-
徳島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
香川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	-	-	-	-
愛媛県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	2	-	-	-	-	-	-
高知県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	1	-	-	-	-
福岡県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	24	-	1	-	-	-	-
佐賀県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	2	-	-	-	-	-	-
長崎県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	6	-	1	-	-	-	-
熊本県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	2	-	-	-	-
大分県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	15	-	-	-	-	-	-
宮崎県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
鹿児島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	-	-	-	-
沖縄県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	4	-	-	-	-	-	-

第3101表 報告数・累積報告数，疾病・都道府県別

平成12年34週

	急性灰白髄炎		ジフテリア		腸管出血性大腸菌感染症		アメーバ赤痢		エキノコックス症		黄熱		オウム病		回歸熱		ウイルス性肝炎	
	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積
総数	-	1	-	1	190	1987	6	241	1	12	-	-	-	13	-	-	2	666
北海道	-	-	-	-	3	60	-	4	1	11	-	-	-	-	-	-	-	11
青森県	-	-	-	-	5	18	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5
岩手県	-	-	-	-	12	79	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	8
宮城県	-	-	-	-	3	39	-	6	-	-	-	-	-	-	-	-	-	14
秋田県	-	-	-	-	2	34	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	8
山形県	-	-	-	-	4	18	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
福島県	-	-	-	-	-	9	-	2	-	1	-	-	-	1	-	-	-	3
茨城県	-	-	-	-	-	23	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5
栃木県	-	-	-	1	1	10	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5
群馬県	-	-	-	-	-	15	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	20
埼玉県	-	-	-	-	5	51	-	8	-	-	-	-	-	2	-	-	-	6
千葉県	-	-	-	-	2	59	-	10	-	-	-	-	-	1	-	-	-	10
東京都	-	-	-	-	23	176	2	61	-	-	-	-	-	3	-	-	-	75
神奈川県	-	-	-	-	2	127	1	13	-	-	-	-	-	-	-	-	-	17
新潟県	-	-	-	-	-	11	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
富山県	-	-	-	-	4	30	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5
石川県	-	-	-	-	4	39	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	19
福井県	-	-	-	-	1	11	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-
山梨県	-	-	-	-	-	11	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	9
長野県	-	-	-	-	-	17	1	2	-	-	-	-	-	1	-	-	-	4
岐阜県	-	-	-	-	-	14	-	4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	10
静岡県	-	-	-	-	1	23	-	7	-	-	-	-	-	-	-	-	-	22
愛知県	-	-	-	-	8	121	-	15	-	-	-	-	-	-	-	-	-	23
三重県	-	-	-	-	-	29	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4
滋賀県	-	-	-	-	-	24	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	6
京都府	-	-	-	-	-	22	-	7	-	-	-	-	-	-	-	-	-	25
大阪府	-	-	-	-	37	220	-	42	-	-	-	-	-	1	-	-	-	77
兵庫県	-	-	-	-	14	108	-	23	-	-	-	-	-	-	-	-	1	74
奈良県	-	-	-	-	1	12	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	11
和歌山県	-	-	-	-	1	34	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	1	7
鳥取県	-	-	-	-	2	22	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
島根県	-	-	-	-	15	42	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
岡山県	-	-	-	-	6	50	-	3	-	-	-	-	-	2	-	-	-	23
広島県	-	-	-	-	13	83	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	19
山口県	-	-	-	-	2	21	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3
徳島県	-	-	-	-	1	8	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	30
香川県	-	-	-	-	1	12	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	11
愛媛県	-	-	-	-	1	17	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	21
高知県	-	-	-	-	-	7	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	7
福岡県	-	-	-	-	9	112	-	6	-	-	-	-	-	-	-	-	-	28
佐賀県	-	-	-	-	1	25	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-
長崎県	-	-	-	-	-	26	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
熊本県	-	-	-	-	2	13	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	14
大分県	-	-	-	-	1	18	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3
宮崎県	-	1	-	-	-	30	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	11
鹿児島県	-	-	-	-	2	32	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	9
沖縄県	-	-	-	-	1	25	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

第3101表 報告数・累積報告数, 疾病・都道府県別

平成12年34週

	Q 熱		狂 犬 病		クリプト スポリジウム症		クロイツフェルト ・ヤコブ病		劇症型溶血性 レンサ球菌感染症		後天性 免疫不全症候群		コクシジ オイデス症		ジアルジア症		腎症候性出血熱	
	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積
総 数	-	8	-	-	-	3	1	64	-	32	8	473	-	1	2	62	-	-
北海道	-	6	-	-	-	-	-	2	-	1	-	6	-	-	-	2	-	-
青森県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
岩手県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	-	-	-	-	-	-
宮城県	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-	-	2	-	-	-	1	-	-
秋田県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	-	-	-	-	-	1	-	-
山形県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
福島県	-	-	-	-	-	-	-	2	-	1	-	2	-	-	-	-	-	-
茨城県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	1	31	-	-	-	1	-	-
栃木県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	-	13	-	-	-	-	-	-
群馬県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	-	6	-	-	-	-	-	-
埼玉県	-	-	-	-	-	-	-	2	-	3	-	21	-	-	-	4	-	-
千葉県	-	-	-	-	-	2	-	3	-	3	-	34	-	-	-	2	-	-
東京都	-	-	-	-	-	1	-	7	-	2	4	190	-	1	1	11	-	-
神奈川県	-	-	-	-	-	-	-	3	-	2	-	32	-	-	-	7	-	-
新潟県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	-	2	-	-	-	-	-	-
富山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
石川県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	-	1	-	-	-	1	-	-
福井県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	3	-	-	-	-	-	-
山梨県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4	-	-	-	-	-	-
長野県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	6	-	-	-	3	-	-
岐阜県	-	-	-	-	-	-	-	3	-	1	-	6	-	-	-	-	-	-
静岡県	-	2	-	-	-	-	-	3	-	1	-	14	-	-	-	-	-	-
愛知県	-	-	-	-	-	-	-	6	-	3	-	12	-	-	-	2	-	-
三重県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	10	-	-	-	-	-	-
滋賀県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
京都府	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	6	-	-	-	4	-	-
大阪府	-	-	-	-	-	-	-	1	-	2	1	30	-	-	1	8	-	-
兵庫県	-	-	-	-	-	-	-	5	-	4	-	13	-	-	-	6	-	-
奈良県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-
和歌山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-
鳥取県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	2	-	-
島根県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
岡山県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	-	2	-	-	-	1	-	-
広島県	-	-	-	-	-	-	1	3	-	1	-	2	-	-	-	-	-	-
山口県	-	-	-	-	-	-	-	4	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
徳島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-
香川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
愛媛県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	3	-	-	-	1	-	-
高知県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-
福岡県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	8	-	-	-	-	-	-
佐賀県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
長崎県	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
熊本県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-
大分県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	1	-	-
宮崎県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
鹿児島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-	-	-	-	-
沖縄県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-

第3101表 報告数・累積報告数，疾病・都道府県別

平成12年34週

	髄膜炎菌性髄膜炎		先天性風疹症候群		炭疽		ツツガムシ病		デング熱		日本紅斑熱		日本脳炎		乳児ポツリヌス症		梅毒		
	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	
総数	-	10	-	1	-	-	-	215	-	10	-	17	-	-	-	-	-	8	490
北海道	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	10
青森県	-	-	-	-	-	-	-	11	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
岩手県	-	-	-	-	-	-	-	5	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	6
宮城県	-	-	-	-	-	-	-	10	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	6
秋田県	-	-	-	-	-	-	-	47	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	9
山形県	-	-	-	-	-	-	-	13	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
福島県	-	-	-	-	-	-	-	18	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	7
茨城県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3
栃木県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
群馬県	-	-	-	-	-	-	-	7	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	1
埼玉県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	13
千葉県	-	2	-	-	-	-	-	8	-	-	-	5	-	-	-	-	-	1	19
東京都	-	1	-	-	-	-	-	-	-	6	-	-	-	-	-	-	-	-	75
神奈川県	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	24
新潟県	-	-	-	-	-	-	-	22	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5
富山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
石川県	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5
福井県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
山梨県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
長野県	-	-	-	-	-	-	-	8	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4
岐阜県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
静岡県	-	1	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	8
愛知県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	19
三重県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	6
滋賀県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	9
京都府	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	14
大阪府	-	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	91
兵庫県	-	-	-	-	-	-	-	9	-	-	-	5	-	-	-	-	-	1	30
奈良県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	4
和歌山県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	5
鳥取県	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
島根県	-	-	-	-	-	-	-	10	-	-	-	3	-	-	-	-	-	-	2
岡山県	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	12
広島県	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4
山口県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	13
徳島県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	7
香川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4
愛媛県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	10
高知県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	1
福岡県	-	1	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	41
佐賀県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3
長崎県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
熊本県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3
大分県	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
宮崎県	-	-	-	-	-	-	-	6	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
鹿児島県	-	1	-	-	-	-	-	25	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	9
沖縄県	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2

第3101表 報告数・累積報告数，疾病・都道府県別

平成12年34週

	破傷風		バンコマイシン耐性腸球菌感染症		ハンタウイルス肺症候群		Bウイルス病		ブルセラ症		発疹チフス		マラリア		ライム病		レジオネラ症	
	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積
総数	2	61	-	17	-	-	-	-	-	-	-	-	3	103	-	9	-	116
北海道	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	2	-	9	-	-
青森県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
岩手県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
宮城県	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
秋田県	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
山形県	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	8
福島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
茨城県	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	26
栃木県	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4	-	-	-	-	3
群馬県	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
埼玉県	-	2	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-	-	-	3
千葉県	-	2	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	5	-	-	-	-	3
東京都	-	5	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	1	44	-	-	-	7
神奈川県	-	1	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	8	-	-	-	-	2
新潟県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	2
富山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
石川県	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
福井県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	1
山梨県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
長野県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-
岐阜県	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-
静岡県	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	26
愛知県	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5	-	-	-	-	5
三重県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4
滋賀県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
京都府	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-
大阪府	-	2	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	1	11	-	-	-	3
兵庫県	1	4	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	3
奈良県	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-
和歌山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-
鳥取県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-
島根県	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
岡山県	1	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
広島県	-	4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	3
山口県	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-
徳島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
香川県	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	4
愛媛県	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
高知県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
福岡県	-	2	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	3
佐賀県	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
長崎県	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
熊本県	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-
大分県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
宮崎県	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
鹿児島県	-	7	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-
沖縄県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1

第3102表 報告数・定点当り報告数，疾病・都道府県別

平成12年34週

	インフルエンザ		咽頭結膜熱		A群溶血性 レンサ球菌咽頭炎		感染性胃腸炎		水 痘		手足口病		伝染性紅斑		突発性発疹		百 日 咳	
	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り
総 数	46	0.01	792	0.27	1130	0.38	4874	1.64	2001	0.67	4491	1.51	523	0.18	2807	0.95	102	0.03
北海道	1	0.00	7	0.05	63	0.43	168	1.16	114	0.79	354	2.44	55	0.38	124	0.86	1	0.01
青森県	-	-	-	-	14	0.34	32	0.78	28	0.68	64	1.56	12	0.29	28	0.68	-	-
岩手県	-	-	1	0.03	1	0.03	34	0.89	21	0.55	42	1.11	17	0.45	24	0.63	-	-
宮城県	1	0.01	8	0.14	17	0.29	149	2.53	35	0.59	49	0.83	17	0.29	55	0.93	9	0.15
秋田県	-	-	8	0.23	9	0.26	63	1.80	23	0.66	26	0.74	3	0.09	20	0.57	2	0.06
山形県	-	-	-	-	11	0.38	42	1.45	11	0.38	118	4.07	8	0.28	35	1.21	1	0.03
福島県	-	-	3	0.06	7	0.15	65	1.35	30	0.63	81	1.69	7	0.15	39	0.81	3	0.06
茨城県	2	0.02	4	0.06	30	0.42	143	1.99	31	0.43	112	1.56	5	0.07	51	0.71	1	0.01
栃木県	-	-	3	0.07	19	0.42	46	1.02	22	0.49	83	1.84	2	0.04	40	0.89	-	-
群馬県	-	-	5	0.08	41	0.66	93	1.50	50	0.81	66	1.06	14	0.23	53	0.85	-	-
埼玉県	1	0.00	43	0.28	57	0.37	201	1.31	85	0.55	231	1.50	32	0.21	159	1.03	4	0.03
千葉県	-	-	12	0.09	57	0.44	164	1.27	91	0.71	150	1.16	46	0.36	92	0.71	1	0.01
東京都	-	-	16	0.11	32	0.23	195	1.37	53	0.37	165	1.16	31	0.22	81	0.57	1	0.01
神奈川県	15	0.05	16	0.08	39	0.19	225	1.10	137	0.67	221	1.08	66	0.32	174	0.85	-	-
新潟県	-	-	6	0.10	31	0.52	92	1.53	50	0.83	149	2.48	9	0.15	55	0.92	3	0.05
富山県	-	-	9	0.31	19	0.66	42	1.45	14	0.48	53	1.83	1	0.03	25	0.86	3	0.10
石川県	-	-	3	0.10	3	0.10	68	2.34	17	0.59	39	1.34	2	0.07	30	1.03	3	0.10
福井県	-	-	-	-	10	0.45	97	4.41	21	0.95	34	1.55	2	0.09	27	1.23	-	-
山梨県	6	0.15	3	0.12	5	0.20	32	1.28	9	0.36	16	0.64	5	0.20	5	0.20	2	0.08
長野県	-	-	31	0.60	28	0.54	110	2.12	58	1.12	200	3.85	9	0.17	55	1.06	-	-
岐阜県	-	-	5	0.09	31	0.58	54	1.02	41	0.77	45	0.85	6	0.11	42	0.79	-	-
静岡県	-	-	47	0.64	19	0.26	148	2.00	41	0.55	133	1.80	9	0.12	96	1.30	-	-
愛知県	-	-	15	0.08	100	0.55	306	1.68	114	0.63	221	1.21	63	0.35	181	0.99	8	0.04
三重県	-	-	21	0.47	20	0.44	124	2.76	51	1.13	94	2.09	2	0.04	69	1.53	-	-
滋賀県	-	-	4	0.14	19	0.66	24	0.83	24	0.83	36	1.24	3	0.10	21	0.72	1	0.03
京都府	2	0.02	7	0.09	21	0.28	118	1.55	38	0.50	90	1.18	4	0.05	34	0.45	6	0.08
大阪府	-	-	82	0.43	57	0.30	236	1.24	132	0.69	116	0.61	8	0.04	133	0.70	7	0.04
兵庫県	3	0.02	56	0.44	39	0.31	272	2.14	124	0.98	344	2.71	8	0.06	141	1.11	2	0.02
奈良県	-	-	5	0.14	10	0.29	54	1.54	21	0.60	41	1.17	2	0.06	24	0.69	2	0.06
和歌山県	-	-	44	1.42	5	0.16	31	1.00	33	1.06	37	1.19	2	0.06	39	1.26	1	0.03
鳥取県	-	-	4	0.21	40	2.11	72	3.79	16	0.84	49	2.58	1	0.05	25	1.32	-	-
島根県	-	-	2	0.09	2	0.09	36	1.57	9	0.39	36	1.57	1	0.04	12	0.52	1	0.04
岡山県	-	-	38	0.70	16	0.30	74	1.37	40	0.74	61	1.13	3	0.06	52	0.96	2	0.04
広島県	-	-	40	0.53	10	0.13	95	1.27	36	0.48	102	1.36	5	0.07	62	0.83	3	0.04
山口県	-	-	15	0.31	46	0.94	116	2.37	35	0.71	120	2.45	3	0.06	89	1.82	-	-
徳島県	-	-	51	2.22	5	0.22	48	2.09	28	1.22	41	1.78	1	0.04	30	1.30	-	-
香川県	-	-	28	0.88	11	0.34	43	1.34	9	0.28	74	2.31	3	0.09	27	0.84	6	0.19
愛媛県	-	-	24	0.62	24	0.62	95	2.44	26	0.67	44	1.13	2	0.05	48	1.23	3	0.08
高知県	-	-	27	0.87	22	0.71	37	1.19	12	0.39	60	1.94	-	-	30	0.97	3	0.10
福岡県	-	-	8	0.10	21	0.27	233	2.95	54	0.68	59	0.75	17	0.22	101	1.28	3	0.04
佐賀県	-	-	1	0.04	9	0.39	23	1.00	21	0.91	20	0.87	13	0.57	52	2.26	-	-
長崎県	-	-	2	0.05	13	0.30	56	1.27	21	0.48	38	0.86	-	-	35	0.80	2	0.05
熊本県	1	0.01	14	0.29	19	0.39	67	1.37	37	0.76	40	0.82	7	0.14	69	1.41	5	0.10
大分県	-	-	51	1.42	26	0.72	125	3.47	64	1.78	127	3.53	9	0.25	74	2.06	2	0.06
宮崎県	-	-	18	0.49	18	0.49	145	3.92	36	0.97	123	3.32	2	0.05	69	1.86	-	-
鹿児島県	13	0.13	3	0.05	22	0.37	160	2.67	21	0.35	69	1.15	2	0.03	64	1.07	11	0.18
沖縄県	1	0.02	2	0.06	12	0.35	21	0.62	17	0.50	18	0.53	4	0.12	16	0.47	-	-

第3102表 報告数・定点当り報告数, 疾病・都道府県別

平成12年34週

	風 疹		ヘルパンギーナ		麻 疹 (成人麻疹を除く)		流行性耳下腺炎		急性出血性 結膜炎		流行性角結膜炎		急性脳炎 (日本脳炎を除く)		細菌性髄膜炎		無菌性髄膜炎	
	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り
総 数	49	0.02	4027	1.36	357	0.12	2452	0.83	38	0.06	1141	1.82	5	0.01	3	0.01	56	0.12
北海道	5	0.03	216	1.49	8	0.06	108	0.74	-	-	29	1.00	-	-	-	-	5	0.22
青森県	-	-	103	2.51	2	0.05	31	0.76	3	0.27	9	0.82	-	-	-	-	-	-
岩手県	-	-	71	1.87	1	0.03	15	0.39	1	0.08	11	0.92	-	-	-	-	-	-
宮城県	-	-	158	2.68	10	0.17	10	0.17	-	-	7	0.64	-	-	-	-	-	-
秋田県	-	-	94	2.69	2	0.06	19	0.54	-	-	3	0.43	-	-	-	-	-	-
山形県	-	-	49	1.69	-	-	6	0.21	-	-	4	0.50	-	-	-	-	-	-
福島県	2	0.04	124	2.58	1	0.02	14	0.29	-	-	23	1.92	-	-	-	-	-	-
茨城県	2	0.03	64	0.89	1	0.01	47	0.65	-	-	81	5.06	-	-	-	-	-	-
栃木県	-	-	54	1.20	-	-	13	0.29	-	-	22	1.83	1	0.17	1	0.17	2	0.33
群馬県	-	-	47	0.76	1	0.02	106	1.71	-	-	26	1.86	-	-	-	-	-	-
埼玉県	2	0.01	99	0.64	22	0.14	214	1.39	1	0.03	69	1.92	-	-	-	-	-	-
千葉県	1	0.01	74	0.57	6	0.05	128	0.99	3	0.09	60	1.76	1	0.08	-	-	-	-
東京都	6	0.04	130	0.92	10	0.07	75	0.53	-	-	27	1.93	-	-	-	-	2	0.08
神奈川県	1	0.00	195	0.96	18	0.09	197	0.97	2	0.05	84	2.00	-	-	-	-	6	0.55
新潟県	-	-	199	3.32	6	0.10	66	1.10	-	-	8	0.89	-	-	-	-	2	0.15
富山県	-	-	161	5.55	-	-	9	0.31	-	-	6	0.86	-	-	2	0.40	-	-
石川県	-	-	41	1.41	5	0.17	5	0.17	-	-	5	0.71	-	-	-	-	1	0.20
福井県	-	-	45	2.05	4	0.18	29	1.32	-	-	-	-	-	-	-	-	2	0.40
山梨県	-	-	38	1.52	-	-	6	0.24	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
長野県	-	-	218	4.19	-	-	24	0.46	-	-	11	1.10	1	0.09	-	-	2	0.18
岐阜県	-	-	70	1.32	12	0.23	45	0.85	1	0.08	18	1.50	-	-	-	-	-	-
静岡県	3	0.04	123	1.66	2	0.03	142	1.92	-	-	22	1.22	-	-	-	-	-	-
愛知県	3	0.02	148	0.81	36	0.20	142	0.78	3	0.09	73	2.09	-	-	-	-	-	-
三重県	-	-	102	2.27	4	0.09	66	1.47	-	-	16	1.33	-	-	-	-	1	0.11
滋賀県	1	0.03	18	0.62	4	0.14	7	0.24	-	-	16	2.29	-	-	-	-	3	0.50
京都府	-	-	43	0.57	6	0.08	25	0.33	3	0.17	39	2.17	-	-	-	-	1	0.17
大阪府	4	0.02	162	0.85	51	0.27	143	0.75	4	0.08	72	1.38	-	-	-	-	5	0.63
兵庫県	1	0.01	184	1.45	6	0.05	87	0.69	1	0.03	58	1.66	-	-	-	-	2	0.14
奈良県	1	0.03	12	0.34	28	0.80	14	0.40	1	0.11	32	3.56	-	-	-	-	2	0.33
和歌山県	-	-	21	0.68	-	-	9	0.29	-	-	6	1.50	-	-	-	-	1	0.09
鳥取県	-	-	20	1.05	-	-	20	1.05	-	-	2	0.67	-	-	-	-	1	0.20
島根県	1	0.04	38	1.65	1	0.04	24	1.04	-	-	4	1.33	-	-	-	-	-	-
岡山県	-	-	60	1.11	12	0.22	20	0.37	1	0.08	28	2.33	-	-	-	-	1	0.20
広島県	6	0.08	75	1.00	16	0.21	52	0.69	3	0.15	22	1.10	-	-	-	-	-	-
山口県	2	0.04	57	1.16	-	-	72	1.47	-	-	31	3.44	-	-	-	-	-	-
徳島県	-	-	29	1.26	-	-	3	0.13	-	-	2	0.50	-	-	-	-	-	-
香川県	-	-	57	1.78	4	0.13	30	0.94	-	-	3	1.00	-	-	-	-	-	-
愛媛県	-	-	73	1.87	1	0.03	18	0.46	-	-	28	4.00	-	-	-	-	-	-
高知県	1	0.03	65	2.10	14	0.45	29	0.94	1	0.33	8	2.67	-	-	-	-	3	0.43
福岡県	-	-	73	0.92	14	0.18	90	1.14	-	-	71	3.94	1	0.07	-	-	1	0.07
佐賀県	1	0.04	54	2.35	3	0.13	37	1.61	-	-	5	1.25	-	-	-	-	1	0.17
長崎県	2	0.05	44	1.00	-	-	19	0.43	7	0.88	26	3.25	-	-	-	-	-	-
熊本県	-	-	120	2.45	-	-	163	3.33	-	-	23	2.56	-	-	-	-	4	0.27
大分県	2	0.06	67	1.86	37	1.03	15	0.42	-	-	13	2.60	-	-	-	-	-	-
宮崎県	-	-	89	2.41	1	0.03	24	0.65	3	0.75	3	0.75	-	-	-	-	2	0.29
鹿児島県	-	-	37	0.62	6	0.10	28	0.47	-	-	8	1.60	1	0.08	-	-	3	0.25
沖縄県	2	0.06	6	0.18	2	0.06	6	0.18	-	-	27	2.70	-	-	-	-	3	0.43

第3102表 報告数・定点当り報告数, 疾病・都道府県別 平成12年34週

	マイコプラズマ肺炎		クラミジア肺炎 (オウム病を除く)		成人麻疹	
	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り
総数	42	0.09	1	0.00	5	0.01
北海道	-	-	-	-	-	-
青森県	-	-	-	-	-	-
岩手県	1	0.05	-	-	-	-
宮城県	8	0.67	1	0.08	-	-
秋田県	-	-	-	-	-	-
山形県	2	0.22	-	-	-	-
福島県	-	-	-	-	-	-
茨城県	-	-	-	-	-	-
栃木県	-	-	-	-	-	-
群馬県	-	-	-	-	-	-
埼玉県	-	-	-	-	-	-
千葉県	-	-	-	-	-	-
東京都	1	0.04	-	-	-	-
神奈川県	-	-	-	-	2	0.18
新潟県	1	0.08	-	-	-	-
富山県	1	0.20	-	-	-	-
石川県	2	0.40	-	-	-	-
福井県	3	0.60	-	-	-	-
山梨県	1	0.10	-	-	-	-
長野県	1	0.09	-	-	-	-
岐阜県	-	-	-	-	-	-
静岡県	-	-	-	-	-	-
愛知県	6	0.46	-	-	-	-
三重県	-	-	-	-	1	0.11
滋賀県	1	0.17	-	-	-	-
京都府	-	-	-	-	-	-
大阪府	2	0.25	-	-	-	-
兵庫県	2	0.14	-	-	-	-
奈良県	-	-	-	-	-	-
和歌山県	-	-	-	-	-	-
鳥取県	-	-	-	-	-	-
島根県	-	-	-	-	-	-
岡山県	-	-	-	-	1	0.20
広島県	1	0.05	-	-	-	-
山口県	-	-	-	-	-	-
徳島県	-	-	-	-	-	-
香川県	1	0.20	-	-	-	-
愛媛県	-	-	-	-	-	-
高知県	-	-	-	-	-	-
福岡県	-	-	-	-	-	-
佐賀県	-	-	-	-	-	-
長崎県	-	-	-	-	-	-
熊本県	3	0.20	-	-	-	-
大分県	-	-	-	-	1	0.11
宮崎県	1	0.14	-	-	-	-
鹿児島県	2	0.17	-	-	-	-
沖縄県	2	0.29	-	-	-	-

感染症週報 第2巻、第34号 平成12年9月8日発行  
発行：国立感染症研究所

厚生省保健医療局結核感染症課  
厚生省大臣官房統計情報部

事務局：国立感染症研究所感染症情報センター  
〒162-8640東京都新宿区戸山1-23-1  
TEL：03-5285-1111  
FAX：03-5285-1129

URL： <http://idsc.nih.go.jp/index-j.html>  
< 国立感染症研究所 感染症情報センター >  
<http://www.mhw.go.jp/>  
< 厚生省 >  
<http://www.narita-airport.or.jp/quarantine/>  
< 成田空港検疫所 >  
<http://www.forth.go.jp/>  
< 旅行者のための海外感染症情報 >

本週報は、感染症新法に基づくものであり、全国の医療従事者、定点医療機関、保健所、保健所設置市、特別区、都道府県、地方衛生研究所、検疫所の皆様のご協力を得て、国立感染症研究所感染症情報センターにおいて編集したものです。

また、本週報は速報性を重視しておりますので、今後調査などの結果に応じて、若干の変更が生じることがありますが、その場合には週報上に訂正させていただきます。

「感染症の話」及び「読者のコーナー」の回答欄の内容に関する責は、それぞれの執筆者及び回答者に属しますが、内容に関するご質問、ご意見については事務局でお受けいたします。

なお、週報の内容について、学術的研究、あるいは公衆衛生活動にかかわる業務以外の目的においては、無断転載を禁じます。